教材の利用について：このPDFは、利用者本人の個人学習目的で保存・印刷して利用できます。法令上認められる場合を除き、PDFまたは印刷物の第三者への配布・販売、問題・選択肢・解説の転載・流用、塾・講座・研修等での無断利用はできません。詳細は利用規約をご確認ください。https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0001｜難易度：1

一般的なコンクリートの水セメント比について、最も適切なものはどれか。

ア．水セメント比は強度に影響しない

イ．水セメント比が小さいほど、一般に強度・耐久性を確保しやすい

ウ．水セメント比が大きいほど必ず乾燥収縮が小さくなる

エ．水セメント比は骨材量だけで決まる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。水セメント比は圧縮強度や耐久性に関係する重要な配合条件である。

イ：正しい。同一材料・適切な施工条件では、水セメント比が小さいほど組織が緻密になりやすい。

ウ：誤り。乾燥収縮は単位水量や環境条件等の影響も受け、単純にそうはいえない。

エ：誤り。セメント量と単位水量の比で決まる。

総合解説：コンクリート配合では所要の施工性を確保しつつ、強度・耐久性を満足する水セメント比と単位水量を設定する。

問題 0002｜難易度：2

所要スランプを確保するために単位水量を安易に増加させた場合に生じやすい問題として、最も適切なものはどれか。

ア．鉄筋の降伏強度が必ず増加する

イ．ブリーディングや乾燥収縮の増大につながることがある

ウ．骨材の最大寸法が自動的に大きくなる

エ．空気量が必ずゼロになる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。単位水量の増加は鉄筋材質を変えない。

イ：正しい。過大な単位水量は材料分離、ブリーディング、乾燥収縮等の品質低下要因となる。

ウ：誤り。骨材最大寸法は材料選定の条件である。

エ：誤り。空気量が必ずゼロになるわけではない。

総合解説：施工性を水の追加だけで調整するのではなく、配合・混和剤等を含めて総合的に調整する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0003｜難易度：1

コンクリートの細骨材率について、最も適切なものはどれか。

ア．細骨材率は大きいほど常に単位水量が減少する

イ．所要のワーカビリティーが得られる範囲で適切に設定する

ウ．細骨材率は材料分離に影響しない

エ．細骨材率は硬化後の品質だけに関係し、フレッシュ性状には関係しない

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。過大な細骨材率では表面積増加により必要水量が増えることがある。

イ：正しい。材料分離を抑えつつ所要の施工性を得られる適切な範囲に設定する。

ウ：誤り。細骨材率は材料分離やポンプ圧送性等に影響する。

エ：誤り。フレッシュコンクリートのワーカビリティーに大きく関係する。

総合解説：細骨材率は多すぎても少なすぎても施工性・材料分離に悪影響を与えるため、材料条件に応じて調整する。

問題 0004｜難易度：1

AE剤を使用して適切な微細空気泡を連行する主な効果として、最も適切なものはどれか。

ア．セメントの水和を完全に停止

イ．凍結融解抵抗性やワーカビリティーの改善

ウ．鉄筋の付着強度を必ず2倍にする

エ．コンクリートの密度を必ず増加させる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。水和反応を停止させる作用ではない。

イ：正しい。微細な独立気泡は施工性と耐凍害性の向上に寄与する。

ウ：誤り。そのような一定倍率の効果はない。

エ：誤り。空気を連行するため密度増加が目的ではない。

総合解説：AEコンクリートでは空気量を適切に管理し、過不足による強度低下や耐久性不足を避ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0005｜難易度：1

高性能AE減水剤の一般的な用途として適切なものはどれか。

ア．骨材を溶解してセメントに変える

イ．所要の流動性を保ちながら単位水量を低減する

ウ．硬化後の鉄筋を防錆塗料で被覆する

エ．コンクリート中の水を完全に除去する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。骨材を化学的にセメントへ変換するものではない。

イ：正しい。流動性確保と減水を両立させる目的で用いられる。

ウ：誤り。鉄筋表面処理剤ではない。

エ：誤り。練混ぜ水を完全に除去するものではない。

総合解説：混和剤は目的に応じて選定し、所要のスランプ・空気量・強度・耐久性を満足するよう管理する。

問題 0006｜難易度：3

細骨材1000 kgを使用する配合で、表面水率が3.0%であった。この表面水を練混ぜ水として考慮する場合、細骨材から持ち込まれる水量として最も近いものはどれか。

ア．3 kg：表面水率3.0%を0.3%として扱う計算

イ．30 kg：1,000 kg×3.0%として表面水量を求める計算

ウ．300 kg：表面水率3.0%を30%として扱う計算

エ．970 kg：骨材質量から30 kgを差し引いた残量を水量とみなす計算

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。1000 kgの0.3%に相当する値である。

イ：正しい。1000×0.03＝30 kgである。

ウ：誤り。30%に相当する。

エ：誤り。骨材質量そのものに近い値であり不適切である。

総合解説：現場配合では骨材の表面水を把握し、計量する練混ぜ水量を補正しないと実際の水セメント比が変化する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0007｜難易度：3

アルカリシリカ反応（ASR）の抑制対策として、適切なものはどれか。

ア．反応性骨材を使用する場合は必ず単位水量だけ増やす

イ．コンクリート中のアルカリ総量を所定以下に抑えるなど、適切な抑制対策を講じる

ウ．海洋環境では外部からのアルカリ供給を考える必要はない

エ．反応性骨材と無害な骨材を混合すれば混合割合に関係なく必ず無害になる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。単位水量増加はASR抑制策ではない。

イ：正しい。令和8年度公式問題でもアルカリ総量抑制が論点として出題されている。

ウ：誤り。環境からのアルカリ供給も条件によって考慮する。

エ：誤り。混合だけで常に反応を抑制できるとは限らない。

総合解説：ASRは反応性骨材・アルカリ・水分等が関係するため、材料選定やアルカリ総量抑制等を組み合わせる。

問題 0008｜難易度：1

フレッシュコンクリート中の塩化物量を管理する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．スランプを必ず25 cm以上にする

イ．鉄筋腐食を抑制し耐久性を確保する

ウ．骨材最大寸法を一定にする

エ．セメントの色を均一にする

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。塩化物量管理の目的ではない。

イ：正しい。過大な塩化物イオンは鉄筋腐食の原因となる。

ウ：誤り。骨材寸法とは別の管理項目である。

エ：誤り。外観色の管理ではない。

総合解説：鉄筋コンクリートでは塩化物イオンによる腐食リスクを抑えるため、材料・配合・施工・環境を含めて管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0009｜難易度：1

粗骨材の最大寸法を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．大きいほど必ず施工性が向上するので部材寸法は考慮しない

イ．部材寸法や鉄筋間隔、かぶり、施工方法等を考慮する

ウ．鉄筋間隔より大きい骨材を意図的に選ぶ

エ．ポンプ圧送する場合も配管径との関係は考えなくてよい

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。過大な骨材は充填不良や閉塞を招く。

イ：正しい。充填性や閉塞防止のため部材・配筋・施工条件との整合が必要である。

ウ：誤り。鉄筋間を通過できる粒径が必要である。

エ：誤り。圧送管径や曲がり等も考慮する。

総合解説：骨材最大寸法は経済性だけでなく、鉄筋間の通過性やポンプ圧送性を含めて決める。

問題 0010｜難易度：2

高炉スラグ微粉末やフライアッシュなどの混和材について、適切なものはどれか。

ア．使用すると必ず初期強度が普通ポルトランドセメント単独より大幅に高くなる

イ．種類や使用条件に応じ、長期強度や耐久性等の改善に利用される

ウ．どの混和材も全く同じ性質を示す

エ．混和材を使えば養生は不要になる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。初期強度発現が遅くなる場合もある。

イ：正しい。混和材ごとに特徴があり、耐久性・温度ひび割れ・長期強度等への効果を期待して用いる。

ウ：誤り。材料ごとに反応性や効果が異なる。

エ：誤り。適切な養生は依然必要である。

総合解説：混和材は目的・環境・施工条件に応じて適用し、強度発現特性も考慮する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0011｜難易度：2

コンクリートの配合強度を定める考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．設計基準強度より必ず小さく設定する

イ．品質のばらつきを考慮し、所要の強度を安定して満足できるよう設定する

ウ．試験結果のばらつきは無視する

エ．配合強度は単位水量だけで決める

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。所要強度を満たすため通常は余裕を持たせる。

イ：正しい。製造・施工に伴う強度のばらつきを考慮して配合強度を設定する。

ウ：誤り。品質変動を考慮することが重要である。

エ：誤り。水セメント比、材料特性等を総合して決める。

総合解説：配合設計では平均値だけでなく品質変動を考え、所要性能を確実に満たすことを目標とする。

問題 0012｜難易度：3

暑中施工でスランプ低下が見られたため、現場で無断加水して流動性を回復させようとしている。最も適切な判断はどれか。

ア．加水量に関係なく強度は変化しないので問題ない

イ．無断加水は水セメント比や品質を変えるため避け、承認された配合・混和剤等により適切に対応する

ウ．スランプが回復すれば耐久性は必ず向上する

エ．加水後は品質試験を一切行わなくてよい

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。水セメント比増大により強度低下等を生じ得る。

イ：正しい。現場加水は配合条件を変え、強度・耐久性・収縮等に影響する。

ウ：誤り。流動性の回復と耐久性向上は同義ではない。

エ：誤り。必要な受入れ・品質管理を行う。

総合解説：施工性の問題を現場加水で解決すると、設計された配合性能を損なうおそれがある。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0013｜難易度：1

フレッシュコンクリートの運搬について、最も適切なものはどれか。

ア．長時間放置してから再練混ぜすれば品質は必ず回復する

イ．材料分離やスランプ低下等をできるだけ生じさせず、速やかに運搬する

ウ．運搬中の温度変化は品質に影響しない

エ．運搬車への任意加水を標準とする

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。時間経過による凝結進行等は単純な再練混ぜでは回復しない。

イ：正しい。運搬中の品質変化を抑え、所定の状態で打ち込むことが重要である。

ウ：誤り。暑中・寒中では温度管理が重要である。

エ：誤り。無断加水は配合を変える。

総合解説：運搬は練混ぜから打込みまでの品質をつなぐ工程であり、時間・温度・材料分離を管理する。

問題 0014｜難易度：2

高い位置からコンクリートを打ち込む場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．高い位置から自由落下させるほど均質になる

イ．シュートやホース等を用い、材料分離を生じないよう落下高さを抑える

ウ．鉄筋が密なほど落下高さを大きくする

エ．粗骨材が分離しても締固めだけで必ず完全に修復できる

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。過大な自由落下は分離の原因となる。

イ：正しい。打込み位置を近づけ、材料分離を抑える。

ウ：誤り。密な配筋では特に充填性を確保する必要がある。

エ：誤り。大きな分離は締固めだけでは解消できない。

総合解説：打込み時は材料分離を起こさず、所定位置へ均一に充填することが基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0015｜難易度：2

内部振動機によるコンクリートの締固めとして、最も適切なものはどれか。

ア．材料分離を促すため長時間同一点で振動させる

イ．適切な間隔で挿入し、下層と一体化するよう締め固める

ウ．鉄筋を強く叩いて振動を伝えることを標準とする

エ．締固めは表面だけ行えば内部の空隙は問題ない

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。過振動は材料分離を招く。

イ：正しい。適切な挿入間隔・時間で内部の空隙を除去し一体化する。

ウ：誤り。鉄筋・型枠を不適切に振動させるのは望ましくない。

エ：誤り。内部まで密実に充填する必要がある。

総合解説：振動締固めは不足でも過剰でも品質を損なうため、コンクリート性状と部材条件に応じて行う。

問題 0016｜難易度：2

コンクリートの施工打継ぎ面の処理として、最も適切なものはどれか。

ア．表面に油を塗り付着を防止する

イ．レイタンスや脆弱部等を除去し、必要な処理を行って新旧コンクリートの一体性を確保する

ウ．脆弱なレイタンスを残したまま新しいコンクリートを打ち込む

エ．打継ぎ面は状態に関係なく乾燥粉じんを残す

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。油は付着を阻害する。

イ：正しい。打継ぎ部の付着・一体性確保のため表面処理が重要である。

ウ：誤り。レイタンスは弱層となる。

エ：誤り。清掃等が必要である。

総合解説：施工打継ぎは構造上の弱点となり得るため、位置・表面処理・打込みを計画的に管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0017｜難易度：3

壁体コンクリートの打込み中に供給が長時間中断し、先に打ち込んだ層の凝結が進んだ。懸念される不具合として最も適切なものはどれか。

ア．アルカリシリカ反応

イ．コールドジョイント

ウ．凍上

エ．ボイリング

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。ASRは骨材とアルカリ等の反応による劣化である。

イ：正しい。先行層と後続層が十分一体化しない不連続面を生じるおそれがある。

ウ：誤り。凍上は主に地盤の凍結現象である。

エ：誤り。ボイリングは地下水を伴う地盤の浸透破壊である。

総合解説：打込み計画では供給能力・運搬時間・層厚を調整し、凝結前に一体化できる施工サイクルを確保する。

問題 0018｜難易度：1

打込み後のコンクリートを湿潤状態に保つ主な理由として、最も適切なものはどれか。

ア．鉄筋を意図的に腐食させる

イ．セメントの水和を進め、表面乾燥や初期ひび割れを抑える

ウ．コンクリートを再びフレッシュ状態へ戻す

エ．骨材を溶解する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。鉄筋腐食を促進することが目的ではない。

イ：正しい。初期材齢の水分保持は強度・耐久性確保に重要である。

ウ：誤り。一度硬化が進んだコンクリートを元に戻すものではない。

エ：誤り。骨材溶解を目的としない。

総合解説：養生は打込み後の品質形成工程であり、温度・湿潤状態・外力からの保護を適切に行う。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0019｜難易度：2

暑中コンクリートの施工として、最も適切なものはどれか。

ア．高温時ほど運搬時間を長くする

イ．材料温度や運搬時間を管理し、打込み後の急激な水分蒸発を防ぐ

ウ．表面が乾燥するほど初期ひび割れは減少する

エ．打込み後は直射日光と風に積極的にさらす

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。時間経過による品質変化が大きくなる。

イ：正しい。高温によるスランプ低下・凝結促進・水分蒸発への対策が必要である。

ウ：誤り。急激な乾燥はプラスチック収縮ひび割れ等を助長する。

エ：誤り。遮光・養生等が必要となる。

総合解説：暑中施工では温度上昇と乾燥を抑え、運搬から養生まで連続的に品質管理する。

問題 0020｜難易度：2

寒中コンクリートで最も重要な考え方はどれか。

ア．打込み直後に凍結させるほど強度が増す

イ．初期凍害を防ぎ、必要な強度が得られるまで適切な温度を確保する

ウ．養生中の温度管理は不要である

エ．凍結したコンクリートは解凍すれば必ず元の品質に戻る

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。初期凍害により組織が損傷する。

イ：正しい。初期材齢での凍結を防止し、適切な強度発現を確保する。

ウ：誤り。保温・給熱等を含む温度管理が重要である。

エ：誤り。初期凍害による損傷は不可逆となり得る。

総合解説：寒中施工では打込み温度、保温、型枠・養生期間等を計画して初期凍害を防止する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0021｜難易度：3

コンクリートポンプ圧送で閉塞を防ぐための計画として、最も適切なものはどれか。

ア．配管径が小さいほど粗骨材最大寸法に関係なく必ず圧送しやすい

イ．配管径・延長・曲がり、コンクリートの配合・スランプ等を考慮し、圧送性を確認する

ウ．長距離圧送では材料分離の検討は不要である

エ．配管内に硬化コンクリートが残っていてもそのまま使用する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。配管径と骨材寸法の整合が必要である。

イ：正しい。圧送条件とコンクリート性状の適合が重要である。

ウ：誤り。圧力損失・材料分離・スランプ変化等を検討する。

エ：誤り。閉塞や品質不良の原因となる。

総合解説：ポンプ圧送は打込み能力だけでなく、配合・配管・圧力・洗浄を含むシステムとして計画する。

問題 0022｜難易度：2

コンクリートの型枠・支保工の取外しについて、最も適切なものはどれか。

ア．打込み直後にすべて撤去する

イ．構造物が自重や施工荷重等に耐えられる必要な強度を確認して行う

ウ．強度確認は不要で外観だけで判断する

エ．早期脱型ほど必ずひび割れが減る

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。変形・崩壊の危険がある。

イ：正しい。脱型・支保工撤去には部材の強度発現を確認する。

ウ：誤り。必要な強度条件を満足することが重要である。

エ：誤り。早すぎる撤去は損傷・変形を招く。

総合解説：脱型時期は工程短縮だけで決めず、部材条件・温度・強度発現を踏まえて決定する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0023｜難易度：1

スランプ試験で主として確認するものはどれか。

ア．硬化コンクリートの圧縮強度

イ．フレッシュコンクリートのコンシステンシー

ウ．鉄筋の降伏強度

エ．骨材の絶乾密度だけ

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。圧縮強度は供試体試験等で確認する。

イ：正しい。スランプはフレッシュコンクリートの軟らかさ・施工性を評価する指標の一つである。

ウ：誤り。鉄筋試験の項目である。

エ：誤り。骨材密度の試験ではない。

総合解説：受入れ時にはスランプ、空気量、温度等を必要に応じて確認し、所定の品質を確保する。

問題 0024｜難易度：1

AEコンクリートの空気量試験を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．圧縮強度を直接測定する

イ．鉄筋本数を確認する

ウ．所定の空気量が確保されているか確認する

エ．コンクリートの塩化物量を直接算定する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。圧縮強度試験とは別である。

イ：誤り。配筋検査で確認する。

ウ：正しい。AEコンクリートでは空気量が施工性・耐凍害性・強度に影響する。

エ：誤り。塩化物量試験とは別項目である。

総合解説：空気量は過小でも過大でも性能に影響するため、規定範囲内に管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0025｜難易度：2

コンクリートの圧縮強度試験について、最も適切なものはどれか。

ア．供試体の養生条件は強度に影響しない

イ．スランプ値だけから圧縮強度を確定する

ウ．所定材齢の供試体強度等から構造物に用いるコンクリートの品質を確認する

エ．試験結果が規格外でも記録を削除すればよい

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。養生条件は強度発現に影響する。

イ：誤り。スランプだけで強度は確定できない。

ウ：正しい。供試体による圧縮強度は代表的な品質管理項目である。

エ：誤り。不適合時は原因確認と適切な処置が必要である。

総合解説：圧縮強度試験は採取・成形・養生・試験まで一連の条件を適切に管理して評価する。

問題 0026｜難易度：2

打込み直後、気温が高く乾燥した強風下でコンクリート表面に細かなひび割れが発生した。最も考えられる原因はどれか。

ア．基礎地盤の液状化

イ．鉄筋の疲労破壊

ウ．表面からの水分蒸発がブリーディングによる供給を上回ったことによるプラスチック収縮

エ．アルカリシリカ反応が数分で進行したこと

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。地盤現象である。

イ：誤り。打込み直後の表面ひび割れの説明にならない。

ウ：正しい。硬化前の急激な乾燥により表面収縮が拘束されて発生する。

エ：誤り。ASRはこの時間スケールの現象ではない。

総合解説：プラスチック収縮ひび割れは風・高温・低湿度等で蒸発が大きいと発生しやすく、早期養生が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0027｜難易度：3

マスコンクリートに生じる温度ひび割れについて、最も適切なものはどれか。

ア．部材が小さいほど水和熱が必ず蓄積しやすい

イ．温度変化とは無関係である

ウ．セメント水和熱による温度上昇とその後の冷却収縮が拘束されることで発生することがある

エ．養生温度の管理は温度応力に影響しない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。大断面ほど内部に熱が蓄積しやすい。

イ：誤り。温度履歴が主因の一つである。

ウ：正しい。内部温度上昇と外部・後期冷却による温度差、拘束が重要因子である。

エ：誤り。温度履歴を制御することは対策となる。

総合解説：マスコンクリートでは材料・配合・打込み温度・リフト割り・養生等を通じて温度応力を管理する。

問題 0028｜難易度：2

乾燥収縮ひび割れを抑制する考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．部材の拘束条件を無視する

イ．打込み直後から強風で急速乾燥させる

ウ．単位水量を必要以上に増やさず、適切な養生とひび割れ制御を行う

エ．ひび割れが生じても原因調査せず全て同じ補修材で充填する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。拘束が大きいほど収縮応力が問題となる。

イ：誤り。急速乾燥はひび割れを助長する。

ウ：正しい。配合・養生・拘束条件・目地・鉄筋等を総合して収縮ひび割れを抑える。

エ：誤り。原因・幅・進行性・漏水等を評価して補修方法を選ぶ。

総合解説：ひび割れ対策は発生原因に応じて予防・評価・補修を行うことが基本である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0029｜難易度：3

塩害で劣化した鉄筋コンクリートを部分断面修復する場合の留意点として、最も適切なものはどれか。

ア．既設部の塩化物イオン量は調査しない

イ．断面修復材の色だけ合わせればよい

ウ．補修部と未補修部の境界付近でマクロセル腐食等が生じる可能性も考慮する

エ．短期間の通電で電気防食の効果は永久に保証される

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。劣化範囲や残存塩分の把握が重要である。

イ：誤り。補修の目的は耐久性・性能回復であり外観だけではない。

ウ：正しい。令和8年度公式問題でも部分断面修復後の境界部腐食が論点となっている。

エ：誤り。電気防食は継続的な管理が必要となる。

総合解説：塩害補修では劣化原因を除去・抑制し、補修部と既設部の電気化学的環境も考慮する。

問題 0030｜難易度：3

既設コンクリート構造物にひび割れが確認された。補修方法を決定する前の調査として、最も適切なものはどれか。

ア．写真を撮らず補修後に原因を推定する

イ．ひび割れ幅だけ測定し、全て同じ原因と判断する

ウ．ひび割れ幅・位置・方向・深さ・進行性・漏水・周辺劣化等を確認し、原因を推定する

エ．構造的なひび割れかどうかを確認せず表面塗装だけ行う

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。補修前の状態記録が重要である。

イ：誤り。幅だけでは原因や危険性を特定できない。

ウ：正しい。複数の情報を総合して原因・重要度・補修目的を整理する。

エ：誤り。構造安全性・進行性を確認して工法を選定する。

総合解説：ひび割れ補修は『見つけたら埋める』のではなく、原因・進行性・要求性能を評価して工法を選ぶ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0031｜難易度：1

土工における地山土量・ほぐし土量・締固め土量の関係について、最も適切なものはどれか。

ア．ほぐし土量と締固め土量は必ず同一である

イ．土の体積は状態に関係なく常に一定である

ウ．掘削・運搬・締固めにより土の体積状態は変化するため、同じm3でも状態を区別する必要がある

エ．土量換算では土質を考慮する必要はない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。一般に異なる。

イ：誤り。間隙状態の変化により体積が変化する。

ウ：正しい。掘削でほぐれ、締固めで密度が変わるため状態別に扱う。

エ：誤り。土質によって土量変化率も異なる。

総合解説：土工数量は地山・ほぐし・締固めのどの状態の体積かを明確にして管理する。

問題 0032｜難易度：2

切土施工中、設計時に想定していた地質より著しく脆弱な層が出現した。最も適切な対応はどれか。

ア．地質変化を記録せず完成後に報告する

イ．予定勾配のまま無条件で掘削を続ける

ウ．法面安定や排水条件を確認し、必要に応じて施工を中断して設計条件との差異を協議する

エ．崩壊が起こるまで対策しない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。施工中の重要情報として速やかに扱う。

イ：誤り。安定性が確保できない可能性がある。

ウ：正しい。想定外地質は安定性に直接影響するため、確認・記録・協議が必要である。

エ：誤り。予防的な安全管理が必要である。

総合解説：土工では地盤が不均質であることを前提に、施工時の観察結果を計画へ反映する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0033｜難易度：2

構造物基礎の掘削で、支持地盤となる掘削底面を仕上げる際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．雨水を長期間滞留させる

イ．重機で必要以上に掘り下げ、軟弱化させる

ウ．過掘りや泥ねい化を避け、所定の支持地盤を乱さないよう仕上げる

エ．支持層確認をせず直ちに基礎コンクリートを打つ

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。泥ねい化や支持力低下を招く。

イ：誤り。過掘りは埋戻しや地盤改良が必要となる場合がある。

ウ：正しい。基礎底面の乱れは支持力・沈下特性に悪影響を与える。

エ：誤り。地盤確認が必要である。

総合解説：掘削底面は設計で期待する地盤性能を維持した状態で次工程へ引き渡す。

問題 0034｜難易度：1

盛土材料の選定として、最も適切なものはどれか。

ア．含水比が極端に高い土ほど締固めやすいので優先する

イ．有機物を多量に含む土でも無条件で主要盛土材料に用いる

ウ．土質・含水状態・締固め特性・使用位置等を考慮して適否を判断する

エ．材料の粒度は施工性に影響しない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。過湿土は締固め困難や安定性低下を招く。

イ：誤り。高有機質土等は一般に盛土材として問題となる。

ウ：正しい。材料性状と盛土部位・施工条件の適合が必要である。

エ：誤り。粒度は排水性・締固め性等に影響する。

総合解説：盛土材料は入手性だけでなく、締固め後に要求される強度・変形・排水性能を考えて選定する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0035｜難易度：1

盛土施工の基本として適切なものはどれか。

ア．下層の締固めを確認せず上層を施工する

イ．全高を一度に盛り立てて表面だけ締め固める

ウ．所定の層厚で敷き均し、各層を所定の締固め度まで締め固めてから次層へ進む

エ．盛土層厚は使用機械と無関係に任意に決める

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。下層の不良を残すことになる。

イ：誤り。内部が十分締め固まらない。

ウ：正しい。層ごとの敷均し・締固めが均一な盛土品質につながる。

エ：誤り。土質・機械・要求品質等に応じて決める。

総合解説：盛土は一層ごとの品質を積み重ねて構築するため、層厚と締固め管理が重要である。

問題 0036｜難易度：2

盛土材が最適含水比より著しく湿潤で、ローラ走行時にわだちや練返しが生じている。適切な対応はどれか。

ア．水をさらに散布する

イ．転圧回数だけ無制限に増やす

ウ．乾燥・曝気や材料調整等で含水状態を改善してから締め固める

エ．練返しが生じてもそのまま次層を施工する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。さらに過湿になる。

イ：誤り。過湿土では回数増加だけで改善しないことがある。

ウ：正しい。過湿状態では転圧によってかえって構造を乱す場合がある。

エ：誤り。下層不良を残してしまう。

総合解説：締固めはエネルギーだけでなく含水状態が支配的であり、転圧前の材料調整が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0037｜難易度：3

軟弱地盤上に高盛土を施工する場合、段階施工や施工速度管理を行う主な理由として最も適切なものはどれか。

ア．沈下を完全にゼロにするため

イ．盛土荷重を一切地盤へ伝えないため

ウ．地盤の強度増加や間隙水圧の消散状況を確認しながら安定を確保するため

エ．締固めを不要にするため

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。沈下をゼロにできるわけではない。

イ：誤り。盛土荷重は地盤へ作用する。

ウ：正しい。急速載荷によるすべり破壊等を避け、圧密進行を利用して施工する。

エ：誤り。盛土本体の締固めは必要である。

総合解説：軟弱地盤上の盛土では施工速度そのものが安定性を左右するため、沈下・間隙水圧等の計測管理と組み合わせる。

問題 0038｜難易度：2

河川堤防の築堤材料について、一般に適切な考え方はどれか。

ア．有機質土を多く含むほど安定性が必ず向上する

イ．単一粒径の粗粒材だけが常に最適である

ウ．粒径が適度に配合された材料は締固めやすく、所要の遮水性・安定性確保に有利となる場合がある

エ．材料の透水性は堤防性能に関係しない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。高有機質土は一般に不適である。

イ：誤り。粗粒材だけでは高い透水性等が問題となることがある。

ウ：正しい。粒度配合は締固め性や透水性に関係する。

エ：誤り。浸透に対する性能へ影響する。

総合解説：築堤材料は締固め性だけでなく、浸透・侵食・安定性を含めて評価する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0039｜難易度：2

地下水位以下の掘削における排水計画として、最も適切なものはどれか。

ア．周辺井戸や地盤沈下への影響は考慮しない

イ．地下水を無制限に低下させれば常に安全である

ウ．掘削底面の安定と周辺地盤への影響を考慮して排水・止水方法を選定する

エ．湧水があっても排水経路を設けない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。周辺環境への影響評価が必要である。

イ：誤り。過度な地下水低下は周辺沈下等を招くことがある。

ウ：正しい。ボイリング・盤ぶくれ・周辺沈下等を含めて検討する。

エ：誤り。掘削安定・施工性を損なう。

総合解説：掘削排水では掘削内を乾燥させることだけでなく、周辺地盤の有効応力変化も管理する。

問題 0040｜難易度：2

道路盛土で、切土部から盛土部へ移行する境界に不同沈下が懸念される。施工上の対策として適切なものはどれか。

ア．境界部だけ締固めを省略する

イ．境界面を平滑な鉛直面のまま残して盛土する

ウ．段切り等により新旧・切盛境界のなじみを良くし、十分な締固めを行う

エ．排水を境界部へ集中させる

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。弱点を残す。

イ：誤り。一体性が悪くなりやすい。

ウ：正しい。境界部のすべりや不同変形を抑えるため段切り・締固め等を行う。

エ：誤り。浸透水集中は不安定化の原因となる。

総合解説：切盛境界や既設盛土との接続部は変形差が生じやすいため、形状・締固め・排水に注意する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0041｜難易度：1

盛土施工中の表面排水管理として、最も適切なものはどれか。

ア．降雨後に泥ねい化しても直ちに次層を施工する

イ．施工面を常に凹形にして雨水を集める

ウ．施工面に適切な横断勾配等を設け、雨水が滞留しないよう排水する

エ．排水溝は完成後だけ設置する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。含水状態を確認・調整する必要がある。

イ：誤り。水が滞留し軟弱化する。

ウ：正しい。雨水の浸透・滞留を抑え施工面を良好に保つ。

エ：誤り。施工中の仮排水も重要である。

総合解説：盛土品質は降雨の影響を受けるため、施工面排水と作業再開時の含水状態確認を行う。

問題 0042｜難易度：2

土砂を掘削し、500 m離れた盛土地点へ運搬して敷き均す作業の機械編成として、一般に合理的な組合せはどれか。

ア．クレーンだけで土砂を連続運搬する

イ．振動ローラだけで掘削・運搬・敷均しをすべて行う

ウ．バックホウによる掘削・積込み、ダンプトラックによる運搬、ブルドーザ等による敷均し

エ．水準器だけで土砂を運搬する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。一般土工の連続運搬として非効率である。

イ：誤り。ローラは主に締固め機械である。

ウ：正しい。各工程に適した機械を組み合わせる。

エ：誤り。測量器具である。

総合解説：土工の生産性は掘削・積込み・運搬・敷均し・締固めの能力バランスで決まる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0043｜難易度：2

隣接する2測点の盛土断面積がそれぞれ40 m2と60 m2、測点間距離が20 mである。平均断面法による盛土量はどれか。

ア．500 m3：平均断面積50 m2に距離10 mを掛ける計算

イ．800 m3：小さい断面積40 m2だけに距離20 mを掛ける計算

ウ．1,000 m3：平均断面積50 m2に距離20 mを掛ける計算

エ．2,000 m3：2断面積を平均せず合計して距離20 mを掛ける計算

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。平均断面積50 m2に距離10 mを掛けた値である。

イ：誤り。断面積40 m2だけを用いた値である。

ウ：正しい。(40＋60)÷2×20＝1,000 m3である。

エ：誤り。平均せず合計断面積をそのまま距離に掛けている。

総合解説：平均断面法では両端断面積の平均に測点間距離を掛けて区間土量を求める。

問題 0044｜難易度：3

軟弱地盤上の道路盛土で、供用後の残留沈下が大きいと予測される。最も適切な考え方はどれか。

ア．沈下が大きいほど橋台との段差は小さくなる

イ．予測沈下量を無視して舗装を直ちに完成する

ウ．必要に応じて載荷盛土・圧密促進・地盤改良等を検討し、供用後の残留沈下を抑える

エ．沈下計測は工期を延ばすだけなので行わない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。不同沈下による段差が問題となる。

イ：誤り。舗装や構造物取付部に障害が生じ得る。

ウ：正しい。供用後の変状を抑えるため事前に沈下を進行させる方法等を検討する。

エ：誤り。沈下管理は施工判断に有効である。

総合解説：軟弱地盤上の盛土では、安定と沈下を時間軸で管理し、供用後の性能を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0045｜難易度：1

一定の締固めエネルギーで土の含水比と乾燥密度の関係を求めた締固め曲線について、適切なものはどれか。

ア．最適含水比では乾燥密度が必ずゼロになる

イ．曲線の最低点が最大乾燥密度である

ウ．曲線の頂点に対応する含水比を最適含水比、その乾燥密度を最大乾燥密度という

エ．含水比と乾燥密度には関係がない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。最大乾燥密度に対応する。

イ：誤り。頂点が最大乾燥密度である。

ウ：正しい。令和8年度第一次検定でも直接出題された基本事項である。

エ：誤り。締固め曲線として明確な関係を示す。

総合解説：締固め管理では現場乾燥密度を室内試験の最大乾燥密度と比較する方法が広く用いられる。

問題 0046｜難易度：2

室内締固め試験による最大乾燥密度が1.90 Mg/m3、現場乾燥密度が1.805 Mg/m3であった。締固め度は何%か。

ア．90%：現場乾燥密度と最大乾燥密度の比を小さく見積もる計算

イ．92%：1.805÷1.90の比率を92%とみなす計算

ウ．95%：1.805÷1.90×100で締固め度を求める計算

エ．105%：最大乾燥密度と現場乾燥密度の分子・分母を逆にする計算

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。比率計算が不足している。

イ：誤り。1.805/1.90の値ではない。

ウ：正しい。1.805÷1.90×100＝95%である。

エ：誤り。現場乾燥密度が最大乾燥密度を大きく上回る計算ではない。

総合解説：締固め度は現場乾燥密度を基準となる最大乾燥密度で除して百分率表示する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0047｜難易度：2

一般に土が最適含水比付近で高い乾燥密度を得やすい理由として、最も適切なものはどれか。

ア．含水比は粒子配列に影響しないため

イ．水が多いほど無制限に乾燥密度が上がるため

ウ．水分が全くないと必ず粒子が最密充填されるため

エ．適量の水が土粒子間の摩擦低減に寄与し、再配列しやすくなるため

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。含水状態は締固め性に影響する。

イ：誤り。過剰な水分は間隙を占め、乾燥密度は低下する。

ウ：誤り。乾燥側では粒子間摩擦が大きく締固めにくい場合がある。

エ：正しい。適量の水分が潤滑的に働き締固めが進みやすくなる。

総合解説：乾燥側・湿潤側とも最大乾燥密度より低くなるため、現場では含水状態を管理する。

問題 0048｜難易度：1

比較的粒状性の高い砂質土の締固めに適した作用として、一般に最も有効なものはどれか。

ア．水中で放置するだけ

イ．静置だけ

ウ．加熱だけ

エ．振動作用

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。所要密度を確保する方法ではない。

イ：誤り。十分な締固めエネルギーを与えられない。

ウ：誤り。締固め方法ではない。

エ：正しい。振動により粒子の再配列が進みやすい。

総合解説：粒状土では振動ローラ等、粘性土ではこね返し・圧縮作用を持つ機械など、土質に合う締固め機構を選ぶ。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0049｜難易度：1

粘性土の締固めに適する機械の一例として、最も適切なものはどれか。

ア．クローラクレーンだけ

イ．船舶用プロペラ

ウ．アスファルトフィニッシャだけ

エ．タイヤローラやタンピングローラ等

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。揚重機械であり締固め機械ではない。

イ：誤り。土工締固め機械ではない。

ウ：誤り。舗装敷均し機械である。

エ：正しい。粘性土には練返し・圧縮等の作用を与えやすい機械が適する場合がある。

総合解説：締固め機械は土質・層厚・含水状態・施工規模に応じて選定する。

問題 0050｜難易度：2

盛土の転圧回数を決定する方法として、最も適切なものはどれか。

ア．施工層厚は転圧効果に影響しない

イ．回数を増やせば無限に密度が増えると仮定する

ウ．土質が変わっても転圧条件は変更しない

エ．試験施工等で転圧回数と密度の関係を確認し、所要品質と施工性を満たす条件を設定する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。厚すぎる層では下部まで締固め効果が届きにくい。

イ：誤り。ある程度以上では密度増加が小さくなり過転圧の問題もあり得る。

ウ：誤り。材料条件が変われば再確認が必要となる。

エ：正しい。現場条件に応じた転圧条件を実証的に決める。

総合解説：試験施工は使用機械・層厚・速度・回数・含水状態を組み合わせて最適条件を決めるために有効である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0051｜難易度：2

振動ローラによる締固めで走行速度を極端に速くした場合に考えられる影響として、最も適切なものはどれか。

ア．振動数が自動的にゼロになる

イ．速度が速いほど必ず締固め度が無限に高くなる

ウ．走行速度は締固め効果に全く影響しない

エ．単位面積当たりに与える締固め作用が不足し、所要密度を得にくくなることがある

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。機械設定とは別である。

イ：誤り。過大速度はむしろ不利となり得る。

ウ：誤り。速度は重要な施工条件である。

エ：正しい。通過時間が短くなり、必要な転圧作用が不足する場合がある。

総合解説：締固め管理では回数だけでなく、層厚・走行速度・振動条件を合わせて管理する。

問題 0052｜難易度：1

ローラによる盛土締固めの走行方法として、最も適切なものはどれか。

ア．毎回全く同じ一本の走行線だけを通る

イ．車輪跡の間を必ず未転圧のまま残す

ウ．法肩部は転圧を一切行わない

エ．隣接する転圧幅を適切に重複させ、締固め不足部が生じないよう施工する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。面全体を均一に施工する必要がある。

イ：誤り。未締固め帯が残る。

ウ：誤り。法肩付近も安全な方法で所要品質を確保する。

エ：正しい。転圧幅の重複により施工面を均一に締め固める。

総合解説：締固めの均一性は走行パターンや重複幅の管理によって確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0053｜難易度：1

盛土の現場密度試験を行う主な目的はどれか。

ア．地下水のpHだけを測定する

イ．土の色だけを判定する

ウ．法面の植生種類を決める

エ．施工された土の密度を測定し、所定の締固め品質を確認する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。水質試験ではない。

イ：誤り。密度試験の目的ではない。

ウ：誤り。植生工選定の試験ではない。

エ：正しい。現場乾燥密度等を求め、締固め度などで品質判定する。

総合解説：締固め品質は目視だけでなく、所定の試験方法で客観的に確認する。

問題 0054｜難易度：3

同じローラ・同じ転圧回数で施工しているにもかかわらず、一部区間だけ締固め度が低い。最初に確認すべき事項の組合せとして最も適切なものはどれか。

ア．完成写真のファイル名だけ

イ．作業員の制服の色だけ

ウ．現場事務所の室温だけ

エ．材料の土質・含水比、敷均し厚、走行条件、現場密度試験位置等

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。品質原因分析にはならない。

イ：誤り。締固め度の原因分析には関係しない。

ウ：誤り。盛土施工条件ではない。

エ：正しい。締固め品質に直接影響する材料・施工・測定条件を確認する。

総合解説：締固め不良では機械回数だけに原因を求めず、材料、含水、層厚、速度、測定の各要因を切り分ける。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0055｜難易度：2

切土法面の安定性に影響する要因として、最も適切な組合せはどれか。

ア．道路標識の字体だけ

イ．作業員数だけ

ウ．施工機械の塗装色だけ

エ．地質・地下水・法面勾配・風化・不連続面等

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。地盤力学的要因ではない。

イ：誤り。主要な地盤安定要因ではない。

ウ：誤り。法面安定とは無関係である。

エ：正しい。法面安定は地盤強度や水、地質構造、形状等の影響を受ける。

総合解説：法面設計・施工では地質と地下水の把握が特に重要で、施工中の湧水・亀裂も監視する。

問題 0056｜難易度：1

法面排水工の主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．植生を全て除去する

イ．法面へ水を集中させる

ウ．土のせん断強度を必ずゼロにする

エ．表面水・浸透水を適切に処理し、侵食や法面不安定化を抑える

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。植生工と組み合わせることもある。

イ：誤り。集中流は侵食を促進する。

ウ：誤り。排水は安定性向上を目的とする。

エ：正しい。水は侵食や間隙水圧上昇を通じて法面安定に影響する。

総合解説：法面保護は表面保護だけでなく、排水により水の作用を制御することが重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0057｜難易度：1

降雨による表面侵食が生じやすい土質法面で、地盤自体の大規模なすべりのおそれは小さい。この法面に植生工を施工する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．岩盤をコンクリートに変える

イ．深層地すべりを植生だけで必ず完全に止める

ウ．地下水位を必ずゼロにする

エ．表面侵食の防止や景観・環境への配慮

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。そのような作用はない。

イ：誤り。深層すべりには別途安定対策が必要である。

ウ：誤り。地下水排除工とは異なる。

エ：正しい。植生によって表面を保護し侵食を抑制する。

総合解説：植生工は主に表面保護であり、地盤自体の安定不足がある場合は構造的な対策と組み合わせる。

問題 0058｜難易度：2

プレロード工法の基本原理として、最も適切なものはどれか。

ア．杭を使わずに地盤荷重をゼロにする

イ．地盤を凍結して永久に沈下を止める

ウ．地下水を全て除去して土粒子を消失させる

エ．供用前に盛土等で荷重を載せ、圧密沈下をあらかじめ進行させる

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。地盤へ荷重を与えて圧密させる。

イ：誤り。プレロードの原理ではない。

ウ：誤り。土粒子を除去する工法ではない。

エ：正しい。事前載荷によって圧密を進め、供用後の残留沈下を低減する。

総合解説：プレロードは時間を利用する軟弱地盤対策であり、必要に応じて排水促進工法と併用する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0059｜難易度：2

バーチカルドレーン工法を軟弱粘土地盤に適用する主な目的はどれか。

ア．盛土の締固めを不要にする

イ．粘性土の水分を瞬時にゼロにする

ウ．地盤荷重をなくす

エ．排水距離を短縮し圧密を促進する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。盛土本体の締固めは必要である。

イ：誤り。水分を完全除去する工法ではない。

ウ：誤り。荷重は地盤へ作用する。

エ：正しい。鉛直排水材を設けて間隙水の排水距離を短くし圧密時間を短縮する。

総合解説：ドレーン工法は圧密速度を高める工法であり、最終圧密量そのものと時間短縮を区別して理解する。

問題 0060｜難易度：2

サンドコンパクションパイル工法について、最も適切なものはどれか。

ア．橋桁を補強する工法である

イ．地盤中へ水だけを注入する

ウ．軟弱土を全量掘削してコンクリートに置換する工法だけをいう

エ．砂や砕石等を地盤中に圧入・締固めて柱状体を形成し、支持力増加や液状化対策等に用いる

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。地盤改良工法である。

イ：誤り。砂・砕石等の柱状体を形成する。

ウ：誤り。置換工法とは異なる。

エ：正しい。砂質地盤では締固め・液状化対策、粘性土地盤では複合地盤効果等を期待する。

総合解説：サンドコンパクションパイルは対象地盤に応じて期待する改良効果が異なるため、目的を明確にして適用する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0061｜難易度：2

深層混合処理工法の説明として適切なものはどれか。

ア．地下水位を測量する方法である

イ．法面表面へ種子だけを吹き付ける

ウ．地盤を無処理のまま放置する

エ．軟弱土とセメント系等の固化材を原位置で撹拌混合し、改良体を造成する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。測量・観測手法ではない。

イ：誤り。植生工の説明である。

ウ：誤り。地盤改良にならない。

エ：正しい。原位置土を固化材と混合して強度・変形特性を改善する。

総合解説：深層混合処理では改良強度、改良径・配置、撹拌品質などを施工管理する。

問題 0062｜難易度：3

軟弱粘土地盤上で段階盛土を行っている。盛土速度を判断するための計測として、最も有効な組合せはどれか。

ア．盛土材の色だけ

イ．気温だけ

ウ．作業員の出勤人数だけ

エ．沈下量、地表面変位、間隙水圧等

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。盛土材色だけでは判断できない。

イ：誤り。気温だけでは地盤安定を評価できない。

ウ：誤り。地盤挙動の指標ではない。

エ：正しい。沈下・側方変位・間隙水圧から圧密進行と安定性を評価できる。

総合解説：計測管理では事前に管理値と対応方針を設定し、異常兆候があれば盛土速度の低下・停止等を判断する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0063｜難易度：1

良好な支持層が浅く、上部構造荷重に対して支持力・沈下とも満足できる場合、一般に検討しやすい基礎形式はどれか。

ア．基礎を設けない

イ．必ず長大杭基礎

ウ．必ずニューマチックケーソン

エ．直接基礎

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。構造物荷重を地盤へ伝える基礎が必要である。

イ：誤り。支持層が浅い条件で常に杭基礎が最適とは限らない。

ウ：誤り。施工条件に関係なくケーソンを選ぶものではない。

エ：正しい。浅い良好地盤へ荷重を直接伝達できる場合、直接基礎が合理的となり得る。

総合解説：基礎形式は荷重、支持層深度、沈下、地下水、施工条件、周辺影響等を総合して選定する。

問題 0064｜難易度：1

杭基礎が鉛直荷重を地盤へ伝達する代表的な機構の組合せとして適切なものはどれか。

ア．コンクリート表面の色と温度

イ．鉄筋の塗装力と浮力

ウ．型枠の摩擦力だけ

エ．杭先端の支持力と杭周面の摩擦抵抗

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。構造的支持機構と無関係である。

イ：誤り。杭支持機構ではない。

ウ：誤り。型枠は完成時の支持機構ではない。

エ：正しい。杭先端支持と周面摩擦により荷重を地盤へ伝達する。

総合解説：杭形式や地盤条件によって先端支持力と周面摩擦力の寄与割合は異なる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0065｜難易度：2

軟弱地盤中の杭で、周辺地盤が杭より大きく沈下した場合に生じ得る負の周面摩擦力について、適切なものはどれか。

ア．地盤沈下とは無関係である

イ．必ず杭を上向きに持ち上げる

ウ．杭の軸力を必ずゼロにする

エ．杭を下向きに引き込む付加荷重として作用することがある

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。地盤の沈下挙動と密接に関係する。

イ：誤り。負の周面摩擦は一般に下向き作用である。

ウ：誤り。杭軸力を増加させる場合がある。

エ：正しい。地盤と杭の相対沈下により杭周面に下向きの摩擦力が生じることがある。

総合解説：負の周面摩擦は盛土や圧密沈下が生じる軟弱地盤上の杭基礎で重要な検討事項となる。

問題 0066｜難易度：3

既製杭の施工で支持層への到達を判断する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．地盤調査結果と施工記録は照合しない

イ．予定深度に達したら地盤状況に関係なく必ず支持層とみなす

ウ．杭長は施工者の感覚だけで変更する

エ．設計深度だけでなく、施工時の掘削・打撃状況や地盤調査結果等を総合して確認する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。施工時情報との照合が重要である。

イ：誤り。支持層の深度は場所により変化することがある。

ウ：誤り。設計条件との相違は正式に確認・協議する。

エ：正しい。深度と施工情報、地盤条件を整合させて支持層を確認する。

総合解説：令和8年度公式問題でも既製杭の中掘り杭・プレボーリング杭などの施工方法が出題されている重要分野である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0067｜難易度：2

中掘り杭工法の一般的な特徴として適切なものはどれか。

ア．基礎底面を地表に露出させるだけの工法である

イ．杭を地表に置くだけで支持力を得る

ウ．場所打ち杭と同様に必ずケーシング内へ全量コンクリートを打設して杭体を造成する

エ．既製杭の中空部等を利用して地盤を掘削しながら杭を沈設する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。杭施工の説明ではない。

イ：誤り。地盤中へ所定深度まで施工する。

ウ：誤り。杭体自体は既製杭である。

エ：正しい。既製杭を掘削と併行して沈設する工法である。

総合解説：既製杭工法では先端処理方法や支持層への定着方法が支持性能に直結する。

問題 0068｜難易度：2

場所打ち杭施工における孔壁安定の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．掘削孔内への土砂流入は杭品質に影響しない

イ．孔壁が崩壊しても鉄筋かごを投入すれば必ず修復される

ウ．地下水位が高いほど孔壁安定対策は不要となる

エ．地盤・地下水条件に応じ、安定液やケーシング等で孔壁崩壊を防止する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。支持力や杭体品質に悪影響を及ぼす。

イ：誤り。崩壊土は断面欠損やスライム増加の原因となる。

ウ：誤り。地下水は孔壁安定に大きく影響する。

エ：正しい。地盤条件に応じた孔壁安定対策が必要である。

総合解説：場所打ち杭では掘削孔の安定、孔底処理、鉄筋かご建込み、コンクリート打込みを連続して品質管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0069｜難易度：2

場所打ち杭で孔底スライムを適切に除去する主な理由はどれか。

ア．地下水を永久に消失させるため

イ．杭径を意図的に小さくするため

ウ．鉄筋かごの重量を軽くするため

エ．杭先端部の支持性能低下やコンクリート品質不良を防ぐため

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。地下水をなくす処置ではない。

イ：誤り。杭径縮小が目的ではない。

ウ：誤り。鉄筋重量とは無関係である。

エ：正しい。スライムが残ると杭先端支持や根入れ部の品質に悪影響を与える。

総合解説：場所打ち杭の先端支持を確実にするには、支持層確認と孔底スライム処理が重要である。

問題 0070｜難易度：2

場所打ち杭の水中コンクリートをトレミー管で打設する場合の基本として、最も適切なものはどれか。

ア．トレミー管先端を既に打ち込んだコンクリート中に適切に埋め込み、材料分離や水の混入を防ぐ

イ．トレミー管先端を常にコンクリート面より大きく上方へ引き上げる

ウ．打込み途中で管内を空気だけにして再開する

エ．水中でコンクリートを自由落下させる

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。管先端をコンクリート中に保持して連続的に打設する。

イ：誤り。水との接触・材料分離を招く。

ウ：誤り。打込みの連続性を損なう。

エ：誤り。品質不良を生じやすい。

総合解説：水中コンクリートでは水との混合を抑え、トレミー管の埋込みと打込み連続性を管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0071｜難易度：2

場所打ち杭の杭頭部で余盛りコンクリートを設け、後に所定高さまで除去する主な理由として適切なものはどれか。

ア．上部に生じやすいレイタンスや不良コンクリートを除去し、健全な杭頭を確保するため

イ．杭の支持力を意図的にゼロにするため

ウ．鉄筋を切断して定着をなくすため

エ．杭径を地表部だけ半分にするため

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。打設上端部の品質不良部を除去してフーチング等との接合品質を確保する。

イ：誤り。支持力を失わせる目的ではない。

ウ：誤り。主筋は所定の定着を確保する必要がある。

エ：誤り。そのような目的ではない。

総合解説：杭頭処理では主筋を損傷させず、健全なコンクリート面と所定の杭頭高さを確保する。

問題 0072｜難易度：1

杭の載荷試験を実施する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア．荷重と沈下・変位の関係などから杭の支持特性を確認する

イ．コンクリートの色を確認する

ウ．杭周辺の気温だけを測定する

エ．鉄筋径を目視だけで決定する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。実際に荷重を作用させて杭の支持性能を評価する。

イ：誤り。外観色の試験ではない。

ウ：誤り。支持力確認が目的である。

エ：誤り。鉄筋径は設計図書等で定める。

総合解説：杭の支持性能は設計値だけでなく、必要に応じ載荷試験や施工管理情報から確認する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0073｜難易度：3

複数本の杭を近接して配置した群杭について、最も適切なものはどれか。

ア．各杭が完全に独立しているとは限らず、地盤を介した相互作用を考慮する必要がある

イ．杭本数を増やせば一本当たり支持力は必ず無限に増える

ウ．群杭では沈下を検討する必要はない

エ．杭間隔は支持性能に影響しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。杭間の応力重複等により群杭としての支持力・沈下を検討する。

イ：誤り。相互作用により単純な本数比例とならない場合がある。

ウ：誤り。群杭沈下も重要である。

エ：誤り。杭間隔は相互作用に関係する。

総合解説：杭基礎では一本杭の性能だけでなく、群杭としての支持・変形挙動を評価する。

問題 0074｜難易度：3

液状化のおそれがある地盤上の橋台基礎について、最も適切な考え方はどれか。

ア．地震時の地盤特性低下や橋台背面土圧等を考慮して基礎の耐力・変形を照査する

イ．液状化が生じても地盤反力は地震前と必ず同じとする

ウ．橋台基礎は水平荷重を受けないので地震時照査は不要である

エ．液状化は橋台の安定に影響しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。道路橋示方書の改訂では液状化地盤上の橋台基礎のレベル2地震動に対する照査が導入された。

イ：誤り。液状化により地盤抵抗が低下する。

ウ：誤り。地震時には慣性力や土圧等の水平作用を受ける。

エ：誤り。過去地震でも橋台の傾斜等の被害が確認されている。

総合解説：橋台基礎の耐震では液状化を含む地盤変状と上部・下部構造の相互作用を考慮する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0075｜難易度：1

擁壁の安定を検討する基本的な項目の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ア．滑動・転倒・支持力等

イ．気温・湿度・日射だけ

ウ．塗装色・標識色・照明色

エ．作業員数だけ

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。土圧等に対して滑動、転倒、基礎地盤支持力等を確認する。

イ：誤り。主要な構造安定照査項目ではない。

ウ：誤り。擁壁安定の力学項目ではない。

エ：誤り。構造安定を直接表さない。

総合解説：擁壁は壁体強度だけでなく、基礎を含む全体系として外的安定を確認する。

問題 0076｜難易度：2

擁壁背面の排水設備を設ける主な理由として最も適切なものはどれか。

ア．背面水圧の増大を抑え、擁壁の安定性低下を防ぐ

イ．擁壁背面へ水を積極的に貯留する

ウ．土圧を必ずゼロにする

エ．コンクリートの圧縮強度を自動的に2倍にする

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。水抜き孔や透水層等により背面水を排除し水圧増大を抑える。

イ：誤り。水圧増大は擁壁に不利である。

ウ：誤り。土圧自体は残る。

エ：誤り。排水設備は材料強度を変えない。

総合解説：擁壁では土圧だけでなく地下水・降雨による水圧を適切に処理することが重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0077｜難易度：2

補強土壁の施工として、最も適切なものはどれか。

ア．補強材の配置・長さと盛土材の締固めを所定どおり管理する

イ．補強材は施工中に任意に切断してよい

ウ．壁面近傍の盛土は締固めを一切行わない

エ．排水条件は考慮しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。補強材と盛土の相互作用で安定を確保するため施工精度が重要である。

イ：誤り。補強材の有効長不足につながる。

ウ：誤り。適切な機械・方法で所要品質を確保する。

エ：誤り。浸透水は安定性に影響する。

総合解説：補強土壁では補強材、盛土材、締固め、壁面材、排水を一体として施工管理する。

問題 0078｜難易度：1

橋梁の支承部の主な役割として、最も適切なものはどれか。

ア．上部構造の荷重を下部構造へ伝え、必要な回転・移動を許容または制御する

イ．橋面排水を全て貯留する

ウ．橋脚基礎の支持力をゼロにする

エ．舗装の摩擦係数だけを高める

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。支承は荷重伝達と変位・回転機能を担う重要部材である。

イ：誤り。排水設備ではない。

ウ：誤り。基礎支持力とは別である。

エ：誤り。舗装材料ではない。

総合解説：支承は温度変化や地震時変位にも関係し、損傷すると橋梁全体の機能に大きく影響する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0079｜難易度：1

橋梁の伸縮装置について、最も適切なものはどれか。

ア．温度変化等による桁端の伸縮を吸収しつつ車両走行性等を確保する

イ．橋脚の基礎支持力を増加させる

ウ．橋面からの排水を橋桁内部へ導くことだけを目的とする

エ．桁の伸縮を完全に拘束する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。桁の伸縮を許容し、路面の連続性や止水等を確保する。

イ：誤り。基礎支持力に直接作用する部材ではない。

ウ：誤り。漏水防止も重要であるが、それだけが目的ではない。

エ：誤り。必要な伸縮を吸収する装置である。

総合解説：伸縮装置の劣化は騒音、段差、漏水による下部部材劣化等につながるため維持管理上も重要である。

問題 0080｜難易度：2

鋼橋の疲労について、最も適切なものはどれか。

ア．大型車等による繰返し応力を受ける溶接継手等で損傷が進行することがある

イ．静的強度以下の応力なら繰返し回数に関係なく疲労は生じない

ウ．疲労はコンクリート橋だけの現象である

エ．応力集中部ほど疲労上有利である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。繰返し応力と応力集中により疲労き裂が生じることがある。

イ：誤り。静的強度以下でも繰返しで疲労破壊することがある。

ウ：誤り。鋼橋でも重要な耐久性問題である。

エ：誤り。応力集中は疲労に不利である。

総合解説：道路橋示方書では鋼橋の設計に疲労の影響を考慮する考え方が明確化されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0081｜難易度：2

プレストレストコンクリート橋でプレストレスを導入する基本的な目的はどれか。

ア．あらかじめ圧縮力を与え、使用時の引張応力やひび割れを抑制する

イ．コンクリートを引張だけで抵抗させる

ウ．PC鋼材を無応力のまま配置する

エ．部材自重をゼロにする

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。コンクリートの引張に弱い性質を補うため圧縮応力を導入する。

イ：誤り。引張応力を抑える考え方である。

ウ：誤り。PC鋼材に緊張力を導入する。

エ：誤り。自重そのものは存在する。

総合解説：PC橋では緊張・定着・グラウト等の施工品質がプレストレス効果と耐久性を左右する。

問題 0082｜難易度：2

高力ボルト摩擦接合の接合面について、最も適切なものはどれか。

ア．所要のすべり係数が得られるよう、油・泥等を除去し適切な表面状態を確保する

イ．摩擦を減らすため接合面へ油を塗る

ウ．ボルト締付け後に接合面へ泥を充填する

エ．接合面状態はすべり耐力に影響しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。接触面の摩擦性能を確保するため表面処理・清掃が重要である。

イ：誤り。油は摩擦係数を低下させる。

ウ：誤り。接合性能を損なう。

エ：誤り。摩擦接合では接合面状態が重要である。

総合解説：国土交通省共通仕様書でも高力ボルト摩擦接合の接触面処理やすべり係数が規定されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0083｜難易度：2

コンクリート床版を有する道路橋の橋面防水・排水について、最も適切なものはどれか。

ア．床版への水・塩化物の浸入を抑え、排水を適切に処理することが耐久性確保に重要である

イ．水を床版内部へ滞留させるほど耐久性が高まる

ウ．凍結防止剤を使用する地域では防水は不要である

エ．排水桝の閉塞は床版劣化に影響しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。水・塩分の浸入は鉄筋腐食や床版劣化を促進する。

イ：誤り。滞水は劣化を助長する。

ウ：誤り。塩化物環境ではむしろ水・塩分対策が重要である。

エ：誤り。滞水や漏水を招く。

総合解説：橋梁耐久性は材料だけでなく、水を構造物へ入れない・滞留させないディテールと維持管理が重要である。

問題 0084｜難易度：3

橋桁架設の施工計画として、最も適切なものはどれか。

ア．完成系だけでなく、吊上げ・仮置き・連結前後など各施工段階の安定性と風荷重等を検討する

イ．完成時に安全なら架設途中の安定性は検討しない

ウ．クレーン能力は桁重量だけで決め、作業半径を無視する

エ．強風時ほど吊荷を高く保持して待機する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。架設中は完成系と異なる構造系となるため段階ごとの安全確認が必要である。

イ：誤り。施工途中が最も不安定となる場合がある。

ウ：誤り。クレーン能力は作業半径等に依存する。

エ：誤り。強風時の吊荷は重大な危険となる。

総合解説：橋梁施工では完成構造の設計だけでなく、架設ステップごとの仮設・揚重・風・地震等を計画する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0085｜難易度：1

緊急輸送道路上の橋梁に耐震補強を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．大規模地震後も落橋・倒壊を防ぎ、必要に応じて速やかな機能回復を可能にする

イ．地震時に必ず無損傷とすることだけが唯一の目的である

ウ．橋梁の自重をゼロにする

エ．道路の交通量を永久にゼロにする

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。国土交通省は落橋・倒壊防止に加え、被災後の迅速な緊急輸送機能確保を進めている。

イ：誤り。要求性能は橋の重要度や地震レベル等に応じて設定される。

ウ：誤り。自重をなくすものではない。

エ：誤り。交通機能の確保が重要である。

総合解説：耐震補強では人命保護だけでなく、緊急輸送道路等では地震後の機能回復性が重要となる。

問題 0086｜難易度：2

橋梁の落橋防止対策について、最も適切なものはどれか。

ア．大地震時に支承部等が損傷した場合でも、桁の落下を防ぐための多重的な対策として用いられる

イ．日常交通の騒音だけを低減する設備である

ウ．橋脚基礎の支持力を必ずゼロにする

エ．伸縮装置の代わりに路面を固定するだけの設備である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。想定を超える変位や支承損傷等に対して落橋を防止する役割を持つ。

イ：誤り。耐震安全上の設備である。

ウ：誤り。基礎支持力を失わせるものではない。

エ：誤り。伸縮装置とは目的が異なる。

総合解説：橋梁耐震では支承・橋脚・基礎とともに落橋防止システムを含む全体系で安全性を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0087｜難易度：2

既設鉄筋コンクリート橋脚の耐震補強方法として一般的なものはどれか。

ア．鋼板巻立てやRC巻立て等により耐力・靭性を向上させる

イ．主鉄筋をすべて切断して変形性能を高める

ウ．橋脚断面を無条件で半分に削る

エ．支承を撤去して上部工を直接置くだけとする

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。巻立て補強等によってせん断耐力や変形性能を改善する。

イ：誤り。耐力・定着性能を損なう。

ウ：誤り。断面減少は一般に不利である。

エ：誤り。適切な荷重伝達・変位機能が必要である。

総合解説：耐震補強工法は既設構造の耐力不足部位・破壊モード・施工条件に応じて選定する。

問題 0088｜難易度：3

鋼橋の溶接部に疲労き裂が確認された場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．き裂範囲・原因・応力状態を調査し、必要に応じて進展停止・補修・補強を行う

イ．塗装で隠せば構造的な補修は不要である

ウ．き裂長さを記録せず通行を続ける

エ．疲労き裂は繰返し荷重と無関係なので原因調査しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。き裂の進展性と原因を評価して適切な補修・補強を行う。

イ：誤り。塗装だけではき裂の構造的問題を解決しない。

ウ：誤り。記録・監視が重要である。

エ：誤り。繰返し応力が主要因である。

総合解説：疲労補修ではき裂を処置するだけでなく、応力集中やディテールなど再発原因への対策が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0089｜難易度：2

鉄筋腐食により浮き・剥離が生じたコンクリート部材の断面修復として、最も適切なものはどれか。

ア．劣化・脆弱部を除去し、鉄筋の腐食状態を確認・処理した上で適合する修復材で断面を復旧する

イ．浮いたコンクリートを残したまま表面だけ塗装する

ウ．腐食鉄筋を確認せず修復材だけ厚く塗る

エ．劣化原因に関係なく全て同一工法を採用する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。健全部まで劣化部を除去し、鉄筋処理と修復材施工を適切に行う。

イ：誤り。内部劣化が継続する。

ウ：誤り。鉄筋腐食への対応が必要である。

エ：誤り。塩害・中性化等の原因に応じた対策が必要である。

総合解説：断面修復は断面形状を戻すだけでなく、劣化因子と鉄筋腐食の制御まで考える。

問題 0090｜難易度：2

コンクリート構造物の表面被覆工法について、最も適切なものはどれか。

ア．水分・塩化物・二酸化炭素等の劣化因子の侵入を抑制する目的で用いられる

イ．既に大きく失われた鉄筋断面を被覆だけで元に戻せる

ウ．構造耐力が著しく不足していても被覆だけで必ず補強できる

エ．適用後の点検・再塗布は不要である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。表面からの劣化因子侵入を抑制する予防・補修工法である。

イ：誤り。鉄筋断面損失を物理的に復元する工法ではない。

ウ：誤り。耐力補強が必要な場合は別途補強工法を検討する。

エ：誤り。被覆材にも劣化があり維持管理が必要である。

総合解説：補修工法は『何を防ぐ工法か』を理解し、劣化原因と要求性能に合うものを選定する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0091｜難易度：2

橋梁補修工事の完了後の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．補修箇所の状態を定期的に確認し、再劣化や新たな変状の有無を追跡する

イ．補修後は永久に点検しない

ウ．補修前の写真や記録を廃棄する

エ．再劣化しても原因を調べず同じ材料を上塗りする

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。補修効果と再劣化を点検で確認し、維持管理へフィードバックする。

イ：誤り。補修材・既設構造とも継続的な点検が必要である。

ウ：誤り。比較評価のため記録を保存する。

エ：誤り。再劣化原因を分析して対策を見直す。

総合解説：補修は完了時点が終点ではなく、その後の点検・評価まで含めた維持管理サイクルの一部である。

問題 0092｜難易度：3

大規模地震後、緊急輸送道路上の橋梁を早期に供用判断するための確認として、最も適切なものはどれか。

ア．支承、伸縮装置、橋脚、基礎周辺、落橋防止装置、路面段差等の損傷を確認し、通行安全性と機能回復性を評価する

イ．舗装表面の色だけ確認して全面開放する

ウ．上部工だけ見て下部工・基礎周辺は確認しない

エ．余震の可能性を考慮せず損傷記録を残さない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。橋梁全体系の損傷と二次災害リスクを確認して通行判断する。

イ：誤り。構造安全性を評価できない。

ウ：誤り。支承・橋脚・基礎等の損傷が機能に影響する。

エ：誤り。余震と復旧経過を考慮し記録・監視する。

総合解説：緊急輸送道路では落橋防止だけでなく、地震後に速やかに緊急車両の通行を確保できる機能回復性が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0093｜難易度：1

道路舗装における路床の役割として、最も適切なものはどれか。

ア．表層のすべり抵抗だけを確保する層である

イ．舗装から伝わる荷重を支持し、舗装構造の基礎となる地盤部分である

ウ．アスファルト混合物の温度を保持するためだけの層である

エ．コンクリート版の目地を充填する材料層である

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。すべり抵抗は主として路面・表層の機能である。

イ：正しい。路床は舗装を支持する地盤部分であり、その支持力は舗装構造に影響する。

ウ：誤り。温度保持を目的とする層ではない。

エ：誤り。目地注入材とは役割が異なる。

総合解説：舗装は表層だけで性能が決まるのではなく、路盤・路床を含めた構造全体で交通荷重を支持する。路床の不良は上層の早期損傷につながる。

問題 0094｜難易度：1

路床土のCBR試験について、最も適切なものはどれか。

ア．アスファルト混合物の針入度だけを測定する試験である

イ．路床土の支持力を評価する指標の一つとして用いられる

ウ．コンクリートの曲げ強度を直接求める試験である

エ．路面の平たん性だけを測定する試験である

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。針入度はアスファルトの性状試験に関係する。

イ：正しい。CBRは路床・路盤材料の支持力評価に用いられる代表的な指標である。

ウ：誤り。コンクリート強度試験とは別である。

エ：誤り。路面平たん性の測定ではない。

総合解説：路床の設計・施工では、土質だけでなくCBR等による支持力評価を用いて舗装構成や改良の必要性を検討する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0095｜難易度：2

切土区間の路床面から、局部的に軟弱で不均一な土が確認された。施工上の対応として最も適切なものはどれか。

ア．軟弱部を残したまま上層路盤で覆えばよい

イ．軟弱部の範囲と深さを確認し、必要に応じて置換えや安定処理等を行って均一な路床に仕上げる

ウ．路床面へ水をため、さらに軟化させてから舗装する

エ．路床の状態に関係なく表層厚だけ増やせば必ず解決する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。局部的弱点が残ると上層へ変形が伝わる。

イ：正しい。不均一な弱点を残すと不同変形や舗装損傷の原因となるため、範囲確認と適切な処置が必要である。

ウ：誤り。含水増加は支持力低下を招く場合がある。

エ：誤り。原因が路床にある場合、表層だけでの対応は合理的でない。

総合解説：令和8年度公式問題でも、切土路床で均一性を損なう材料を除去して仕上げる考え方が扱われている。路床は局所的弱点を残さないことが重要である。

問題 0096｜難易度：2

盛土路床の施工として、最も適切なものはどれか。

ア．一度に厚く盛り立て、表面だけ転圧する

イ．使用材料の性質を把握し、所定の層厚で均一に敷き均して十分に締め固める

ウ．含水状態を確認せず同一条件で転圧する

エ．下層の締固め不足を残したまま上層を施工する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。内部の締固め不足が生じやすい。

イ：正しい。材料性状、層厚、含水状態、転圧条件を管理して均一な支持力を確保する。

ウ：誤り。含水状態は締固め効果に大きく影響する。

エ：誤り。下層不良は完成後の変形につながる。

総合解説：路床・路盤は各層ごとの品質を積み上げて構築する。層厚と締固めの均一性が舗装の長期性能を左右する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0097｜難易度：1

軟弱な路床に対する置換工法の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．原地盤を全く掘削せず、表面へ塗料を塗る工法である

イ．原地盤の不良土を所定深さまで除去し、良質材料に置き換えて支持力等を改善する

ウ．アスファルト表層だけを切削する工法である

エ．路床を意図的に飽和させる工法である

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。置換工法の説明ではない。

イ：正しい。弱い路床土を除去し、良質材で置き換えることで支持性能を改善する。

ウ：誤り。舗装修繕の切削工とは異なる。

エ：誤り。支持力低下を招く可能性がある。

総合解説：路床改良では置換え、安定処理等を現地土質、改良深さ、施工条件に応じて選定する。

問題 0098｜難易度：2

粒状路盤の締固めについて、最も適切なものはどれか。

ア．材料が過湿であるほど必ず高い密度が得られる

イ．降雨等により材料が著しく水を含み締固めが困難な場合は、含水状態を改善してから施工する

ウ．含水状態は締固め品質に影響しない

エ．締固め不足でも上層を施工すれば路盤品質は回復する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。過湿では締固め困難となる場合がある。

イ：正しい。過湿状態では所要密度が得にくく、材料の乱れも生じるため適切な含水管理が必要である。

ウ：誤り。含水状態は締固め効果に関係する。

エ：誤り。下層の締固め不足は後から解消しにくい。

総合解説：令和8年度公式問題でも、粒状路盤で著しく水を含む場合は晴天を待つなど含水状態を改善して施工する考え方が扱われている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0099｜難易度：2

セメント安定処理路盤を施工した直後の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．締固め直後から大量の交通を無条件に通す

イ．交通開放する場合などは、必要に応じて表面を保護し適切に養生する

ウ．表面を乾燥させるため水分を完全に除去する

エ．養生は強度発現に影響しないので不要である

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。初期損傷の原因となる。

イ：正しい。セメント系安定処理では強度発現までの表面乾燥や損傷を防ぐため養生が必要となる。

ウ：誤り。過度な乾燥は適切でない。

エ：誤り。水和反応と強度発現に養生条件が影響する。

総合解説：安定処理路盤は締固め完了が施工終了ではなく、材料の硬化・強度発現を確保するための養生まで含めて管理する。

問題 0100｜難易度：1

舗装の路盤以下の層を水から保護することが重要な理由として、最も適切なものはどれか。

ア．路盤に水が多いほど必ず舗装強度が高くなるため

イ．水の浸入により支持力低下や路盤損傷が進むと、表層等の早期劣化につながるため

ウ．路盤は交通荷重を受けないため水の影響だけを受けるから

エ．表層が健全であれば路盤損傷は永久に起こらないため

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。水浸入は材料によっては支持性能を低下させる。

イ：正しい。路盤以下の損傷は舗装全体の構造健全性に影響する。

ウ：誤り。路盤も交通荷重を分散・支持する。

エ：誤り。亀裂・目地・路肩等から水が浸入する可能性がある。

総合解説：国土交通省の舗装点検要領でも、表層等を適時修繕し路盤以下の層を保護することが舗装長寿命化の重要な視点とされている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0101｜難易度：1

路盤面の仕上げとして、最も適切なものはどれか。

ア．排水を阻害する凹部を意図的に残す

イ．有害な不陸や水たまりが生じないよう、所定の高さ・勾配に仕上げる

ウ．上層舗装で隠れるため高さ管理は不要である

エ．局部的な軟弱箇所はそのまま残す

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。滞水は路盤・舗装の劣化要因となる。

イ：正しい。平たん性・高さ・排水性を確保した路盤面が上層施工の基礎となる。

ウ：誤り。層厚や路面高さに影響するため管理が必要である。

エ：誤り。局部変形の原因となる。

総合解説：令和8年度公式問題では、路床面を水たまりができないよう平たんに仕上げる考え方も出題されている。路床・路盤は排水と均一性が重要である。

問題 0102｜難易度：3

供用後に同じ区間で繰り返しわだち掘れが発生し、調査すると表層・基層だけでなく路盤・路床にも変形が確認された。最も適切な修繕方針はどれか。

ア．原因調査をせず表面へ塗料を塗る

イ．表層だけを毎回薄く切削するのではなく、詳細調査で損傷深さと原因を把握し、必要なら路盤・路床まで含めて修繕する

ウ．路床変形は舗装損傷に影響しないので無視する

エ．わだち掘れ量に関係なく補修は不要とする

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。構造変形を改善できない。

イ：正しい。構造的損傷が下層に及ぶ場合、表層のみの補修では再発しやすい。

ウ：誤り。路床・路盤変形は路面損傷の原因となる。

エ：誤り。走行性・安全性・構造健全性を評価して措置する。

総合解説：舗装修繕では損傷の深さと原因を切り分けることが重要である。国土交通省の舗装点検要領も、早期劣化区間では詳細調査により要因に対応した措置を求めている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0103｜難易度：1

加熱アスファルト混合物の舗設で温度管理が重要な理由として、最も適切なものはどれか。

ア．温度が低いほど必ず締固めやすくなるため

イ．温度が低下しすぎると敷均し・締固めが困難となり、所要密度を得にくくなるため

ウ．温度はアスファルトの粘度に影響しないため

エ．舗設温度は路面状態に関係なく無制限に高くすればよいため

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。低温では粘度が上がり締固めにくくなる。

イ：正しい。アスファルトは温度依存性が高く、適切な温度範囲で施工する必要がある。

ウ：誤り。粘度は温度に大きく依存する。

エ：誤り。過度な加熱は材料劣化等の原因となる。

総合解説：アスファルト舗装では製造・運搬・敷均し・転圧を通じて温度低下を管理し、所要密度を確保する。

問題 0104｜難易度：1

アスファルト舗装のタックコートの主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．路床土を深層まで固化する

イ．既設舗装面や下層と新しいアスファルト混合物層との付着を良好にする

ウ．コンクリート版の収縮目地を形成する

エ．排水性舗装の空隙を完全に閉塞する

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。路床安定処理とは異なる。

イ：正しい。タックコートは舗装層間の接着を確保するために用いられる。

ウ：誤り。コンクリート舗装の目地施工ではない。

エ：誤り。排水性舗装の機能を損なう。

総合解説：層間接着が不十分だと、ずれ・はく離・早期損傷の原因となる。散布面の清掃と均一な散布が重要である。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0105｜難易度：1

加熱アスファルト混合物の締固めとして、最も適切な考え方はどれか。

ア．混合物が十分冷え切ってから初転圧を始める

イ．混合物が適切な温度範囲にあるうちに、所定の転圧機械・順序で所要密度を確保する

ウ．転圧回数を増やせば温度に関係なく必ず品質が向上する

エ．ローラの走行速度や転圧重複は品質に影響しない

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。低温になると締固め不足となりやすい。

イ：正しい。温度、機械、走行速度、転圧回数等を組み合わせて締固める。

ウ：誤り。過転圧や材料の移動を生じる場合もある。

エ：誤り。均一な密度確保に重要な施工条件である。

総合解説：アスファルト混合物の締固めは、適切な温度帯で初転圧・二次転圧・仕上げ転圧を計画的に行うことが基本となる。

問題 0106｜難易度：2

アスファルト舗装を一時中断して横継目を設ける場合、最も適切なものはどれか。

ア．継目部だけ締固めを省略する

イ．既設側の端部を適切に処理し、新設混合物と十分に締め固めて平たんで密実な継目とする

ウ．継目に段差を残すほど走行性が向上する

エ．新旧舗装の付着は不要である

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。密度不足や水浸入の原因となる。

イ：正しい。継目は弱点となりやすいため端部処理・接着・締固めを丁寧に行う。

ウ：誤り。段差は走行性・安全性を低下させる。

エ：誤り。付着・一体性の確保が重要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、施工中断時の横継目を平たんに仕上げることが論点となっている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0107｜難易度：2

ポーラスアスファルト混合物を用いる排水性舗装の特徴として、最も適切なものはどれか。

ア．空隙を完全になくして水を一滴も内部へ入れない構造である

イ．大きな空隙を通じて路面水を速やかに排水し、雨天時の走行安全性向上等を図る

ウ．粗骨材が少ないほど機能が高まるので砂だけで構成する

エ．舗設後に目詰まりしても排水機能は変化しない

答え・解説　正答：イ

ア：誤り。ポーラス構造が特徴である。

イ：正しい。連続空隙により路面水を排水する機能を持つ。

ウ：誤り。粗骨材骨格と空隙形成が重要である。

エ：誤り。目詰まりにより排水機能が低下することがある。

総合解説：排水性舗装では空隙率・連続空隙と下層への防水・排水経路を適切に確保することが重要である。

問題 0108｜難易度：3

夏期に大型車交通が多い交差点付近で、流動によるわだち掘れが急速に進行した。対策検討として最も適切なものはどれか。

ア．高温時ほど軟らかい混合物を選ぶ

イ．原因を調査せず同じ混合物で薄く表面だけ補修する

ウ．交通条件・混合物の耐流動性・舗装構成等を調査し、原因に応じて耐流動性の高い混合物等を検討する

エ．わだち掘れは大型車荷重と無関係と判断する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。耐流動性の観点では不利となる。

イ：誤り。再発する可能性が高い。

ウ：正しい。高温・大型車・混合物性状等が流動変形に関係するため原因分析が必要である。

エ：誤り。大型車交通は舗装損傷の重要因子である。

総合解説：アスファルト舗装の早期劣化区間では、表面症状だけでなく交通量、温度、材料、路盤状態等を詳細調査して措置を選定する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0109｜難易度：2

既設アスファルト舗装にオーバーレイを行う場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．深い構造破壊があってもオーバーレイだけで永久に解決する

イ．既設路面の損傷状態を確認せず、そのまま必ず施工する

ウ．既設舗装のひび割れや不陸等を調査し、必要に応じて事前処理を行ってから新しい混合物層を舗設する

エ．層間接着は不要である

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。下層まで損傷している場合は打換え等を検討する。

イ：誤り。既設舗装の状態評価が必要である。

ウ：正しい。既設損傷に応じたシール、切削、局部補修等の前処理が必要となる場合がある。

エ：誤り。層間接着は重要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、オーバーレイ前のひび割れ対策が論点となっている。修繕工法は損傷深さに応じて選定する。

問題 0110｜難易度：2

切削オーバーレイ工法が適する状況として、最も適切なものはどれか。

ア．コンクリート版のダウエルバーを設置する場合

イ．路床を数m深さまで全面地盤改良する場合だけ

ウ．既設表層等の損傷部分を切削して所定高さ・平たん性を確保し、新しい混合物を舗設する場合

エ．河川護岸の根固めを行う場合

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。コンクリート舗装の目地施工である。

イ：誤り。路床改良工法ではない。

ウ：正しい。既設舗装を一定深さ切削し、新しいアスファルト層を舗設する修繕工法である。

エ：誤り。河川工事ではない。

総合解説：切削オーバーレイは路面高さや不陸を調整しやすいが、損傷が深部まで及ぶ場合は下層を含む修繕が必要となる。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0111｜難易度：3

国土交通省の舗装点検要領で、アスファルト舗装の管理基準として基本的に用いる3指標の組合せとして適切なものはどれか。

ア．N値・含水比・塑性指数

イ．CBR・スランプ・空気量

ウ．ひび割れ率・わだち掘れ量・IRI

エ．圧縮強度・曲げ強度・塩化物量

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。地盤・土質指標である。

イ：誤り。路床・コンクリート関連の試験指標が混在している。

ウ：正しい。舗装点検要領では、ひび割れ率、わだち掘れ量、IRIを基本指標としている。

エ：誤り。コンクリート材料・耐久性の指標である。

総合解説：舗装点検では表面的な見た目だけでなく、ひび割れ、塑性変形、路面の縦断方向凹凸を複数指標で評価する。

問題 0112｜難易度：1

コンクリート舗装の一般的な特徴として、最も適切なものはどれか。

ア．目地は構造上まったく不要である

イ．アスファルト舗装より常にたわみが大きいことを目的とする

ウ．コンクリート版の曲げ剛性により荷重を広く分散して支持する

エ．温度変化や乾燥収縮の影響を受けない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。普通コンクリート舗装では目地が重要な構造要素となる。

イ：誤り。一般に剛性の高い舗装である。

ウ：正しい。剛性の高いコンクリート版で輪荷重を分散する舗装構造である。

エ：誤り。温度・収縮変形を受ける。

総合解説：国土交通省の舗装点検要領では、コンクリート舗装は長期間供用が期待できる一方、目地部が構造的な弱点となりやすいと整理されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0113｜難易度：1

コンクリート舗装の横収縮目地に設置するダウエルバーの主な役割はどれか。

ア．路床を深層改良する

イ．縦目地を完全に開かないよう固定することだけを目的とする

ウ．目地を挟む隣接版間で輪荷重を伝達しつつ、版の伸縮を許容する

エ．表面のすべり抵抗を増加させる

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。地盤改良部材ではない。

イ：誤り。縦目地のタイバーとは機能が異なる。

ウ：正しい。ダウエルバーは荷重伝達を担いながら目地方向の伸縮を許容する。

エ：誤り。路面仕上げの機能ではない。

総合解説：コンクリート舗装の目地では、ダウエルバーとタイバーの役割を区別することが重要である。

問題 0114｜難易度：1

コンクリート舗装の縦目地に用いるタイバーの主な役割として、最も適切なものはどれか。

ア．舗装表面の粗面仕上げを行う

イ．横収縮目地で自由な伸縮を確保しながら輪荷重だけを伝える

ウ．隣接するコンクリート版が横方向に離れるのを抑え、目地を保持する

エ．路盤排水を行う

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。表面仕上げ器具ではない。

イ：誤り。これは主にダウエルバーの役割である。

ウ：正しい。タイバーは縦目地を連結し、隣接版の離れを抑制する。

エ：誤り。排水設備ではない。

総合解説：ダウエルバーは荷重伝達と伸縮許容、タイバーは縦目地の結合保持という機能の違いを理解する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0115｜難易度：2

コンクリート舗装版の打込み後の養生として、最も適切なものはどれか。

ア．養生期間中に重交通を無条件で開放する

イ．打込み直後から乾燥させるほど耐久性が高まる

ウ．表面からの急激な水分蒸発を防ぎ、必要な強度が得られるまで適切な湿潤・温度条件を確保する

エ．養生は表面ひび割れや強度発現に影響しない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。必要強度の確保前の交通開放は損傷につながる。

イ：誤り。急速乾燥は収縮ひび割れ等の原因となる。

ウ：正しい。初期乾燥や温度変化を抑え、強度・耐久性を確保する。

エ：誤り。養生条件は品質へ大きく影響する。

総合解説：令和8年度公式問題でもコンクリート舗装の後期養生や暑中施工の保護が扱われている。舗装版は広い面積が外気にさらされるため養生管理が重要である。

問題 0116｜難易度：2

コンクリート舗装の表面仕上げについて、最も適切なものはどれか。

ア．完成時の平たん性は走行性に影響しない

イ．鏡面状に磨き、摩擦をできるだけ小さくする

ウ．平たん性を確保するとともに、必要なすべり抵抗が得られる粗面仕上げを行う

エ．仕上げ後は養生を行わない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。平たん性は走行性に直接影響する。

イ：誤り。すべり抵抗を低下させる可能性がある。

ウ：正しい。走行性とすべり抵抗を確保するため、平たん仕上げ後に適切な粗面仕上げを行う。

エ：誤り。仕上げ後の養生が重要である。

総合解説：コンクリート舗装では敷均し・締固め・平たん仕上げ・粗面仕上げ・養生を連続的に管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0117｜難易度：2

スリップフォーム工法によるコンクリート舗装の特徴として、最も適切なものはどれか。

ア．アスファルトフィニッシャだけでコンクリート版を施工する

イ．全区間に木製型枠を永久に残置する

ウ．固定型枠を連続的に設置せず、施工機械で敷均し・締固め・成形等を連続施工する

エ．コンクリートの締固めを行わない

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。専用のコンクリート舗装施工機械を用いる。

イ：誤り。固定型枠を省略できることが特徴の一つである。

ウ：正しい。スリップフォームペーバ等により連続的に成形する施工方式である。

エ：誤り。適切な締固めが必要である。

総合解説：令和8年度公式問題でもスリップフォーム工法の施工機械が論点となっている。連続施工のためコンクリート供給の安定性も重要である。

問題 0118｜難易度：2

コンクリート舗装の目地材が飛散し、目地部に角欠けと段差が生じている。放置した場合に懸念されることとして最も適切なものはどれか。

ア．角欠けは走行性や構造性能に一切影響しない

イ．目地損傷が大きいほど路盤は必ず乾燥する

ウ．目地から雨水等が浸入し、路盤損傷や荷重伝達機能低下を進行させる可能性がある

エ．目地材がなくなるとコンクリート版の耐久性は必ず向上する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。段差・角欠けは走行性や版の損傷に影響する。

イ：誤り。水の浸入を促す可能性がある。

ウ：正しい。目地部からの水浸入や荷重伝達機能の低下はコンクリート舗装の重要な損傷要因である。

エ：誤り。目地の止水・機能維持が重要である。

総合解説：舗装点検要領では、コンクリート舗装は目地部を中心に点検し、雨水浸入や荷重伝達機能を評価して措置することが重要とされている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0119｜難易度：2

コンクリート舗装版に横断ひび割れが発生した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．すべての横断ひび割れは同じ原因と判断する

イ．ひび割れを確認せず全面開放を続ける

ウ．ひび割れの幅・段差・荷重伝達機能等を調査し、必要な補修・機能復旧方法を選定する

エ．表面の色だけを合わせれば補修は完了する

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。温度、荷重、支持力低下など原因は複数あり得る。

イ：誤り。進行や段差の有無を確認する必要がある。

ウ：正しい。ひび割れの構造的影響を評価して補修方法を決める。

エ：誤り。機能回復が目的である。

総合解説：コンクリート舗装では目地だけでなく、横断ひび割れが発生した際の版機能復旧に向けた詳細調査が重要である。

問題 0120｜難易度：3

真夏のコンクリート舗装工事で、気温が高く乾燥風も強い。施工計画として最も適切なものはどれか。

ア．スランプ低下時は現場で自由に加水する

イ．打込み後は強風へさらして早く乾燥させる

ウ．コンクリート温度・運搬時間を管理し、路盤や型枠を適切に湿潤状態とし、仕上げ後は速やかに養生する

エ．養生開始を翌日まで遅らせる

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。無断加水は配合と品質を変える。

イ：誤り。急速乾燥はプラスチック収縮等を促進する。

ウ：正しい。暑中施工では高温・乾燥による施工性低下や初期ひび割れを防ぐ総合的な対策が必要である。

エ：誤り。仕上げ後は速やかな養生が重要である。

総合解説：舗装版は広い面積が外気にさらされるため、暑中施工では材料・運搬・打込み・仕上げ・養生を一体として管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0121｜難易度：1

河川内で工事を行う際の水位・潮位管理について、最も適切なものはどれか。

ア．渇水期であれば出水の可能性はゼロとみなす

イ．河川内工事では水位変化を考慮する必要はない

ウ．必要に応じて水位・潮位を観測し、施工や仮設物の安全管理に反映する

エ．水位観測は工事完成後にだけ行う

答え・解説　正答：ウ

ア：誤り。異常降雨や上流からの流入等があり得る。

イ：誤り。出水や水位上昇は重大な施工条件である。

ウ：正しい。河川工事では水位・潮位の変化が施工安全や仮設物に影響するため、必要に応じて観測する。

エ：誤り。施工中の判断に用いる。

総合解説：国土交通省の河川工事共通仕様では、河川工事において必要に応じて水位・潮位を観測することが定められている。

問題 0122｜難易度：2

河川堤防の拡築に現場発生土を利用する計画である。築堤材料として採用するか判断する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．築堤材料の含水状態は締固め品質に影響しない

イ．粗粒材だけを使用すれば透水性に関係なく必ず最適となる

ウ．有機質土を多量に含む材料ほど築堤に適する

エ．粒度、締固め性、透水性等を考慮し、堤防として所要の安定性と遮水性を確保できる材料を選定する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。含水状態は締固め効果へ大きく影響する。

イ：誤り。透水性が高すぎる材料は堤防性能上問題となる場合がある。

ウ：誤り。高有機質土は一般に適さない。

エ：正しい。築堤材料は締固めやすさだけでなく、浸透・侵食に対する性能も考慮する。

総合解説：令和8年度公式問題でも築堤土の粒度配合や締固めが扱われている。堤防材料は均一に締め固め、所要の安定性を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0123｜難易度：2

既設堤防に腹付け盛土を行う場合の施工として、最も適切なものはどれか。

ア．既設堤防側へ雨水を集中させる

イ．既設法面を平滑なまま残して新盛土を載せる

ウ．接合部だけ締固めを省略する

エ．新旧法面をなじませるため段切り等を行い、排水に配慮しながら新しい盛土を十分締め固める

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。浸透水集中は不安定化要因となる。

イ：誤り。すべり面や弱点となりやすい。

ウ：誤り。接合部ほど丁寧な締固めが必要である。

エ：正しい。新旧盛土の一体性と接合部の排水を確保するため、段切りや締固めが重要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、既設堤防の腹付け盛土における段切りと排水への配慮が論点となっている。

問題 0124｜難易度：1

河川護岸に設ける根固工の主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．護岸背面の盛土を意図的に流出させる

イ．堤防天端の交通量を増やす

ウ．河川水位を常に一定に固定する

エ．護岸前面の河床洗掘による基礎の不安定化を抑える

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。背面土の流出防止も護岸安定上重要である。

イ：誤り。交通容量確保が目的ではない。

ウ：誤り。水位制御施設ではない。

エ：正しい。根固工は護岸基礎付近の洗掘を抑え、護岸の安定を確保する。

総合解説：河川護岸では法覆工だけでなく、基礎・根固工によって河床変動や局所洗掘への抵抗性を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0125｜難易度：1

河川の水制工について、最も適切なものはどれか。

ア．橋梁支承の移動を拘束する

イ．河川を完全に締め切って常時流れを止める

ウ．堤防内部の圧密だけを促進する

エ．流れの方向や流速を調整し、河岸侵食の抑制や土砂堆積の促進等を図る

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。橋梁部材ではない。

イ：誤り。河川の完全閉塞が目的ではない。

ウ：誤り。軟弱地盤対策ではない。

エ：正しい。水制は流れへ作用して河岸・河床を保護する施設である。

総合解説：水制工は河道内の流況を利用して河岸侵食や河床変動を制御するため、配置・方向・高さ等が重要となる。

問題 0126｜難易度：3

急流河川の外岸側で、洪水時に流速が大きく河床洗掘も懸念される区間の護岸計画として、最も適切な考え方はどれか。

ア．設計流速を確認せず最も軽い護岸材を選ぶ

イ．表面の植生だけで全ての洗掘に対応する

ウ．根固工は洗掘が大きいほど不要となる

エ．流速・河床変動・基礎地盤を評価し、法覆工だけでなく基礎工や根固工を含めて安定を検討する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。流速等に応じた材料・工法選定が必要である。

イ：誤り。表面保護だけでは対応できない場合がある。

ウ：誤り。洗掘対策として重要である。

エ：正しい。急流部では流体力と洗掘に対する護岸全体系の安定を確認する。

総合解説：護岸工は材料単体で評価せず、基礎・根固め・背面土・排水を含む構造全体で耐侵食性を確保する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0127｜難易度：2

既設堤防を開削して樋門・樋管を施工する場合、最も適切なものはどれか。

ア．埋戻し部の締固めは不要である

イ．施工性だけを優先して堤防を大きく開削する

ウ．床付け面の乱れを放置する

エ．開削範囲を必要最小限とし、基礎・本体・埋戻しを適切に施工して堤防機能を回復する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。埋戻し部は弱点となり得るため適切な締固めが必要である。

イ：誤り。河川管理上、開削は極力小さくすることが望ましい。

ウ：誤り。構造物基礎と不同沈下へ影響する。

エ：正しい。堤防の安全性と施工性を両立させ、完成後の沈下・浸透にも配慮する。

総合解説：令和8年度公式問題でも、樋門・樋管施工時の既設堤防開削を河川管理上極力小さくすることが扱われている。

問題 0128｜難易度：3

軟弱地盤上の柔構造樋門の施工管理として、最も適切なものはどれか。

ア．周辺盛土の施工順序は樋門の変位に影響しない

イ．完成高さだけ設計値に合わせれば施工中の沈下計測は不要である

ウ．沈下が大きいほど函体の安全性は必ず向上する

エ．施工中の沈下・変位を計測し、構造物の挙動を継続的に確認する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。盛土荷重の載荷過程が沈下挙動へ影響する。

イ：誤り。施工途中の不同沈下・変形の把握が必要である。

ウ：誤り。過大な不同沈下は構造へ悪影響を与える。

エ：正しい。軟弱地盤では施工中の地盤・構造物変位を確認しながら施工することが重要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、柔構造樋門では施工中の構造物高さを定期計測し、その動きを記録する考え方が出題されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0129｜難易度：2

河川の浚渫工事を行う場合の施工管理として、最も適切なものはどれか。

ア．水位変化は浚渫船の施工に影響しない

イ．計画河床より深く掘るほど必ず安全になる

ウ．浚渫土の受入れ場所は確認しなくてよい

エ．水位・流況、掘削深さ、周辺構造物への影響、浚渫土の処理等を確認して施工する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。作業船の安全や施工精度へ影響する。

イ：誤り。過掘りは河床・構造物安定へ悪影響を及ぼす可能性がある。

ウ：誤り。受入れ場所や処理方法を事前に確認する。

エ：正しい。河床形状、航行・流況、周辺影響、発生土処理まで一体で管理する。

総合解説：河川共通仕様ではポンプ浚渫、グラブ船、バックホウ浚渫船等の工種が規定され、水位・潮位観測も必要に応じて行う。

問題 0130｜難易度：3

河川内で仮締切を設置して橋脚工事を行う。施工計画上、最も重要な事項の一つはどれか。

ア．仮締切周辺の洗掘は構造物に影響しない

イ．河積をできるだけ狭くして流速を高める

ウ．出水時の撤去・退避計画は不要である

エ．仮締切による河積阻害や局所洗掘を評価し、出水時の安全と河川機能を確保する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。仮設物・既設構造物の安定に影響する。

イ：誤り。水位上昇や洗掘を助長する。

ウ：誤り。異常出水時の対応計画が必要である。

エ：正しい。流下断面縮小による水位上昇や流速増加、局所洗掘を考慮する必要がある。

総合解説：国土交通省河川編では、仮締切・瀬替え等で河積阻害や河川管理施設への局所的洗掘を避けるよう施工することが定められている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0131｜難易度：2

砂防堰堤の基礎地盤が岩盤で、湧水が確認された場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．基礎面の状態を確認せず水中施工とする

イ．泥水が残ったまま基礎コンクリートを打ち込む

ウ．岩盤であれば湧水は品質に影響しない

エ．岩盤清掃と湧水処理を行い、必要に応じて止水・排水対策を講じて良好な基礎面を確保する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。施工条件に応じた処理が必要である。

イ：誤り。付着・品質不良の原因となる。

ウ：誤り。湧水はコンクリート施工に影響する。

エ：正しい。基礎面の清浄性と湧水処理はコンクリートとの一体性・施工品質に重要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、岩盤基礎の清掃と湧水・漏水処理が砂防堰堤施工の論点として出題されている。

問題 0132｜難易度：3

洪水前の点検で護岸の局部損傷と根固工の沈下が確認された。河川修繕として最も適切な考え方はどれか。

ア．護岸損傷は堤防安全性へ影響しないと一律に判断する

イ．表面の色だけ補修し、根固工の沈下は無視する

ウ．洪水後まで点検結果を記録しない

エ．変状の原因・範囲・洪水時の機能低下を評価し、河道・河川管理施設の機能を確保できるよう補修する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。損傷の進行により堤防・高水敷へ影響が波及する場合がある。

イ：誤り。根固工沈下は護岸基礎の安定に影響し得る。

ウ：誤り。出水前に必要な措置を判断する。

エ：正しい。河川修繕は施設機能を確保することが目的であり、洗掘・侵食への影響まで評価する。

総合解説：河川修繕では変状箇所だけを見るのではなく、洪水時に河川管理施設として必要な機能を発揮できるかを評価する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0133｜難易度：1

海岸保全施設における養浜の主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．高潮時の海水を陸側へ導く

イ．海岸線を全てコンクリートで垂直に固定する

ウ．港内水深を増加させるため海浜砂を全て除去する

エ．砂礫を投入して海浜を造成・維持し、波浪のエネルギー低減や海岸侵食の抑制を図る

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。海岸防護と逆の作用である。

イ：誤り。養浜は砂礫を用いる。

ウ：誤り。浚渫とは目的が異なる。

エ：正しい。養浜は砂浜の保全・回復を図る代表的な海岸保全手法である。

総合解説：令和8年度公式問題でも養浜の粒径・施工方法・周辺環境への配慮が扱われている。

問題 0134｜難易度：2

養浜材を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．養浜材の粒径は波浪による移動性に影響しない

イ．現地砂より細かい材料ほど沖向き移動が必ず小さくなる

ウ．有機物やごみを含むほど海浜安定性が高まる

エ．採取場所、粒径、運搬距離、海浜の安定性、周辺環境等を総合して選定する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。粒径は漂砂・海浜形状に大きく関係する。

イ：誤り。細粒材は一般に移動・流出しやすい場合がある。

ウ：誤り。汚濁・環境悪化の原因となる。

エ：正しい。養浜材は物理特性、供給条件、環境影響を総合して選ぶ。

総合解説：養浜では単に砂を投入するのではなく、波浪・漂砂条件に適した粒径と投入方法を選定する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0135｜難易度：2

海岸侵食対策として設ける離岸堤や潜堤の基本的な機能として、最も適切なものはどれか。

ア．下水管の流量を増加させる

イ．港内へ波浪を集中させる

ウ．河川堤防の圧密を促進する

エ．沖合で波浪を減衰させ、背後の海浜を保全する

答え・解説　正答：エ

ア：誤り。上下水道施設ではない。

イ：誤り。波浪制御・海浜保全が目的である。

ウ：誤り。河川盛土の地盤改良ではない。

エ：正しい。波浪を減衰させ、背後での砂の堆積や海浜安定を図る。

総合解説：海岸保全施設は波浪・漂砂への作用が異なるため、海岸地形と周辺への影響を考慮して配置する。

問題 0136｜難易度：2

ケーソン式混成堤について、最も適切なものはどれか。

ア．捨石マウンド上にケーソンを据え付けるなど、直立部と基礎マウンドを組み合わせた防波堤形式である

イ．海浜砂だけを盛り上げた仮設堤である

ウ．河川の木工沈床だけで構成される

エ．トンネルの覆工形式である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。混成堤は捨石基礎と直立ケーソン等を組み合わせる形式である。

イ：誤り。養浜・砂堤とは異なる。

ウ：誤り。河川工法の説明である。

エ：誤り。港湾防波堤の形式である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、防波堤形式としてブロック式直立堤、混成堤、傾斜堤、ケーソン式直立堤の特徴が問われている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0137｜難易度：2

ケーソン式防波堤を施工する際、据付け前に特に重要な確認として最も適切なものはどれか。

ア．基礎捨石マウンドの高さ・平たん性、気象海象、曳航・注水沈設計画等を確認する

イ．マウンドの不陸が大きいほど据付け安定性が高まる

ウ．波浪・潮位は据付け作業に影響しない

エ．ケーソン位置は目視だけで任意に決める

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。基礎精度と気象海象は据付け精度・安全性に直結する。

イ：誤り。不陸は局部支持や傾斜の原因となる。

ウ：誤り。作業船・ケーソン挙動へ大きく影響する。

エ：誤り。測量により所定位置・高さを管理する。

総合解説：港湾工事では陸上施工に加え、潮位・波浪・風・作業船など海象条件を施工計画へ組み込む必要がある。

問題 0138｜難易度：2

港湾構造物で水中コンクリートを打ち込む場合、最も適切なものはどれか。

ア．材料分離や水との混合を抑えるため、トレミー等を用いて所定位置まで連続的に打ち込む

イ．水面上から自由落下させて水中で攪拌する

ウ．打込み中にトレミー先端を常にコンクリート面より上へ出す

エ．打上り面を大きく傾けるほど品質が均一になる

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。水中ではコンクリートと水の混合を防ぎ、連続施工することが重要である。

イ：誤り。材料分離・セメント流出を招く。

ウ：誤り。先端は適切にコンクリート中へ埋め込む。

エ：誤り。打上り面はできるだけ水平に保つ。

総合解説：令和8年度公式問題でも、水中コンクリートの連続打込みやトレミー施工が扱われている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0139｜難易度：2

港湾内の航路・泊地を浚渫する場合の施工管理として、最も適切なものはどれか。

ア．計画水深・掘削範囲を確保するとともに、余掘り、濁り、航行船舶、浚渫土処理等を管理する

イ．計画水深を超えて深く掘るほど必ず経済的である

ウ．浚渫土の性状・処分先は確認しなくてよい

エ．港内船舶の航行は浚渫工事と無関係である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。出来形、安全、環境、発生土処理を一体で管理する。

イ：誤り。不要な余掘りは工費増や周辺地盤への影響につながる。

ウ：誤り。浚渫土の性状に応じた適正処理が必要である。

エ：誤り。船舶交通との調整が重要である。

総合解説：港湾浚渫では水深確保だけでなく、海域環境や港湾利用への影響を抑える施工管理が必要である。

問題 0140｜難易度：2

防波堤ケーソンの基礎となる捨石マウンドについて、最も適切なものはどれか。

ア．所定の形状・高さに築造し、天端を適切に均してケーソンを安定して支持できるようにする

イ．大きな凹凸を残すほどケーソンの安定性が高まる

ウ．石材の品質や粒径は支持性能に影響しない

エ．マウンドの位置・高さは測量しなくてよい

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。均し精度はケーソンの据付け姿勢や接地状態に影響する。

イ：誤り。局部的な支持や傾斜の原因となる。

ウ：誤り。石材の品質・粒径等は安定性に関係する。

エ：誤り。出来形管理が必要である。

総合解説：海上構造物の基礎マウンドは水中施工となるため、測量・潜水作業等で形状・均しを確実に管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0141｜難易度：3

港湾工事で捨石投入と浚渫を同時期に行う計画がある。周辺に漁場が存在する場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．濁りの発生・拡散、施工時期、気象海象、漁業利用等を確認し、必要な汚濁防止・監視対策を計画する

イ．海水は広いので濁りの管理は不要とする

ウ．漁場への影響は工事完成後だけ確認する

エ．投入土砂の性状に関係なく同じ対策だけを適用する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。海域工事では施工起因の濁り等を予測・監視し、周辺利用と環境条件に応じて対策する。

イ：誤り。濁りは水産資源や周辺環境へ影響し得る。

ウ：誤り。施工前・施工中の管理が重要である。

エ：誤り。材料性状・流況・施工方法に応じて対策を選ぶ。

総合解説：海岸・港湾工事では構造物の品質だけでなく、海域環境、船舶交通、漁業等との調整を含めた施工管理が求められる。

問題 0142｜難易度：2

上水道管路の既設管内巻込工法について、最も適切なものはどれか。

ア．既設管内へ縮径した巻込鋼管等を引き込み、所定形状へ拡管・接合して新管を構築する工法である

イ．既設管を全面開削して全撤去することだけをいう

ウ．既設管外面へ塗装するだけの工法である

エ．トンネル切羽を補強する工法である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。既設管内へ新しい管を構築する非開削更新工法の一つである。

イ：誤り。既設管を活用する非開削系工法である。

ウ：誤り。単なる外面塗装ではない。

エ：誤り。管路更新工法である。

総合解説：令和8年度公式問題では、既設管内巻込工法、被覆材管内装着工法、合成樹脂管挿入工法等の特徴が出題されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0143｜難易度：2

既設上下水道管の更生・更新工法を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．管径、屈曲、既設管の損傷状態、必要内径、供用停止条件、施工ヤード等を総合して選定する

イ．すべての管路に同じ工法を適用する

ウ．既設管の破損状態は調査しない

エ．更生後の流下能力や耐荷性能は考慮しない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。工法ごとに適用可能な管径・線形・損傷状態等が異なる。

イ：誤り。現場条件により適用性が変わる。

ウ：誤り。事前調査が工法選定の前提となる。

エ：誤り。要求性能を満足する必要がある。

総合解説：管路更生は非開削で施工できる利点がある一方、既設管の状態や必要性能に応じて工法を選定する必要がある。

問題 0144｜難易度：1

小口径管推進工法について、最も適切なものはどれか。

ア．立坑から推進管等を地中へ押し進め、開削せずに管路を構築する工法である

イ．路面を全延長にわたり開削して管を敷設する工法である

ウ．河川の護岸を施工する工法である

エ．橋桁を架設する工法である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。道路交通や地上施設への影響を抑えて地下管路を施工できる。

イ：誤り。推進工法は非開削施工である。

ウ：誤り。河川護岸工ではない。

エ：誤り。橋梁工法ではない。

総合解説：令和8年度公式問題でも、オーガ式、ボーリング式、圧入式、泥水式等の小口径管推進工法が出題されている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0145｜難易度：3

泥水式小口径管推進工法で切羽を安定させる考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．泥水圧を適切に管理して地下水圧・土圧に対抗し、切羽の崩壊や地盤変位を抑える

イ．切羽へ空気を無制限に送り込み土圧をゼロにする

ウ．泥水圧は地盤条件に関係なく一定でよい

エ．排土量を管理する必要はない

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。泥水圧と排土の管理により切羽安定と地盤変位抑制を図る。

イ：誤り。工法の原理と異なる。

ウ：誤り。地下水圧・土圧等に応じて管理する。

エ：誤り。掘削土量管理は地盤変位防止に重要である。

総合解説：推進・シールド工法では切羽圧と排土量のバランスが地表面沈下・隆起の防止に直結する。

問題 0146｜難易度：2

シールド工法におけるセグメントの施工として、最も適切なものはどれか。

ア．掘進後に所定の内空・線形を確保するよう正確に組み立て、目開きや目違い等を管理する

イ．セグメント間に大きな隙間を意図的に残す

ウ．組立精度はトンネル止水性に影響しない

エ．セグメントは切羽前方で組み立てる

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。セグメントは一次覆工として土水圧を受け、止水・線形確保にも重要である。

イ：誤り。漏水や構造性能低下につながる。

ウ：誤り。継手やシール部の施工精度が止水性に影響する。

エ：誤り。シールド機後方でリングを組み立てる。

総合解説：令和8年度公式問題でも、セグメントの正確・堅固な組立てや目開き・目違い防止が論点となっている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0147｜難易度：3

市街地でシールドトンネルを施工中、地表面沈下が管理値へ近づいてきた。最も適切な対応はどれか。

ア．切羽圧、掘削土量、裏込め注入、シールド姿勢等を確認し、原因に応じて施工条件を調整する

イ．沈下計測を中止して掘進速度だけ上げる

ウ．地表面沈下はシールド施工と無関係と判断する

エ．管理値を現場判断で変更して施工を続ける

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。掘削・排土・裏込めの収支や姿勢を確認し、地盤損失を抑える。

イ：誤り。影響を拡大させる可能性がある。

ウ：誤り。地盤損失や切羽圧管理と関係する。

エ：誤り。管理値超過前に原因確認と適切な対応を行う。

総合解説：シールド工事では地表面・周辺構造物の変位を監視し、計測結果を施工条件へフィードバックする情報化施工が重要である。

問題 0148｜難易度：2

山岳トンネルの全断面工法について、最も適切なものはどれか。

ア．地山が比較的安定し断面条件等が適する場合に、トンネル断面を一度に掘削する工法である

イ．必ず上下半に分割して掘削する工法である

ウ．中央導坑だけを先行して永久に残す工法である

エ．開削工法の一種である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。全断面を一度に掘削するため、安定した地山等で適用しやすい。

イ：誤り。これはベンチカット工法の特徴に近い。

ウ：誤り。全断面工法の説明ではない。

エ：誤り。山岳工法である。

総合解説：令和8年度公式問題では、導坑先進、全断面、中壁分割、ベンチカット各工法の特徴が問われている。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/

問題 0149｜難易度：1

山岳トンネルのベンチカット工法の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．一般に断面を上半部と下半部などに分けて掘削する工法である

イ．全断面を一度に掘削する工法である

ウ．海中へケーソンを沈設する工法である

エ．下水管を立坑から押し進める工法である

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。地山条件や断面規模に応じて上下に分割して掘削する。

イ：誤り。全断面工法の説明である。

ウ：誤り。港湾工事である。

エ：誤り。推進工法である。

総合解説：ベンチ長や分割方法は地山条件、施工機械、変形特性等に応じて決定する。

問題 0150｜難易度：3

山岳トンネルの覆工コンクリート施工として、最も適切なものはどれか。

ア．内空変位の収束状況等を確認し、適切な時期に型枠・打込み・締固め・養生を行って所定の覆工を構築する

イ．掘削直後は地山変形に関係なく必ず覆工を打ち込む

ウ．締固めはコンクリートのワーカビリティーが低下してから行う

エ．必要強度に達する前に型枠を必ず撤去する

答え・解説　正答：ア

ア：正しい。地山挙動と施工条件を確認し、品質・形状・養生を管理して覆工を構築する。

イ：誤り。一般には地山・支保の挙動を踏まえて覆工時期を決める。

ウ：誤り。締固めは打込み時に適切に行う。

エ：誤り。脱型には必要な強度確保が必要である。

総合解説：令和8年度公式問題でも、覆工打込み時期、締固め、型枠取外し、養生が出題されている。覆工は地山挙動とコンクリート品質の双方を管理する。

© 2026 資格ブートキャンプ｜個人学習用。法令上認められる場合を除き、無断転載・再配布・販売・第三者への配布・教材等への無断利用を禁止します。利用規約：https://shikaku-bootcamp.com/terms/